

# 障がい者スポーツの歴史と現状

# 目次

## contents

<b>第1章 わが国の障がい者スポーツの歴史と現状</b>	1
<b>1.障がい者スポーツ関係施設・団体の設立</b>	2
(1)公益財団法人日本障がい者スポーツ協会	2
(2)障がい者スポーツセンター	3
(3)都道府県・指定都市障がい者スポーツ協会	3
(4)障がい者スポーツ競技団体	3
(5)障がい者スポーツ指導者協議会	3
<b>2.スポーツ大会の開催</b>	7
(1)都道府県・指定都市身体障がい者スポーツ大会	7
(2)パラリンピック東京大会	7
(3)全国身体障害者スポーツ大会	8
(4)全国知的障害者スポーツ大会	11
(5)全国障害者スポーツ大会	11
(6)ジャパンパラ競技大会	13
(7)日本車椅子バスケットボール選手権大会	17
(8)全日本女子車椅子バスケットボール選手権大会	20
(9)日本車椅子ツインバスケットボール選手権大会	21
(10)全国身体障害者アーチェリー選手権大会	23
(11)全国車いす駅伝競走大会	25
(12)全国身体障害者スキー大会	26
(13)日本障害者自転車競技大会	28
(14)大分国際車いすマラソン大会	30
(15)全国ろうあ者体育大会	32
<b>3.養成研修事業</b>	36
<b>第2章 パラリンピックのあゆみ</b>	37
<b>参考資料</b>	45

---

# 第 1 章

---

## わが国の障がい者スポーツの歴史と現状

## 1. 障がい者スポーツ関係施設・団体の設立

### (1) 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会は、昭和39年に開催されたパラリンピック東京大会を契機に、わが国の身体障がい者スポーツの普及・振興を図る統括組織として、「財団法人日本身体障害者スポーツ協会」の名称で昭和40年に厚生省(現 厚生労働省)の認可を受けて設立された。

平成10年に長野県で開催された冬季パラリンピックを契機に、三障がいすべてのスポーツ振興を統括する組織として、また国際舞台で活躍できる選手の育成・強化を担う統括組織としての位置づけの必要性が有識者会議で提言された。そこで平成11年、当協会の寄附行為を改正し、財団法人日本障害者スポーツ協会に組織名を改称するとともに、協会内部に日本パラリンピック委員会を設置した。

その後、平成14年に閣議決定された新たな障害者基本計画において、障がい者スポーツの振興については当協会を中心に進める旨が記された。さらに平成23年8月、スポーツ振興法が50年ぶりに全面改正され新たにスポーツ基本法が公布。新法では、障がい者のスポーツ振興についてはじめて言及され、国の責務とともに当協会の立場が明確になった。

#### <協会の事業>

- ①障がい者のスポーツ大会の開催及び奨励
- ②障がい者のスポーツ指導者の養成
- ③障がい者スポーツ団体及び関連団体との連絡調整
- ④障がい者のスポーツに関する相談及び指導
- ⑤国際パラリンピック委員会及び国際的な障がい別競技団体の事業への参画
- ⑥国際障がい者スポーツ大会への選手及び役員の派遣
- ⑦障がい者スポーツ選手の競技力の向上を図るための強化
- ⑧障がい者のスポーツに関する調査研究及び情報の収集
- ⑨障がい者のスポーツの広報
- ⑩パラリンピック競技大会において特に優秀な成績を取った者に対する表彰
- ⑪その他本会の目的達成に必要な事業



シンボルマークは、パラリンピック東京大会の時に制定されたもので、五つの輪は、車いすと世界の人々をつなぐ輪(和)、中心の星は希望、その配列はV字(ビクトリー)で人生を克服する勝利、白鳩は愛を表している。

#### <寄附行為の改正内容(厚生労働大臣承認日)>

- 昭和44(1969)年10月18日■
  - ・法人の事務所変更
- 昭和56(1981)年10月12日■
  - ・常務理事の定数変更(2名→3名、国際担当常務理事の設置)
- 昭和59(1984)年8月2日■
  - ・東京都多摩障害者スポーツセンター受託運営
- 昭和61(1986)年11月25日■
  - ・東京都障害者総合スポーツセンター受託運営
- 平成2(1990)年11月22日■
  - ・最高顧問制度創設(日本体育協会会長を最高顧問とする)
- 平成7(1995)年5月15日■
  - ・名誉会長制度創設
- 平成11(1999)年8月20日■
  - ・財団法人日本障害者スポーツ協会に名称変更
  - ・日本パラリンピック委員会(JPC)を設置
  - ・三つの協議会(スポーツ協会協議会、競技団体協議会、スポーツ指導者協議会)を設置
- 平成12(2000)年5月31日■
  - ・日本パラリンピック委員会運営委員会委員の定数変更
- 平成17(2005)年4月1日■
  - ・東京都多摩障害者スポーツセンター並びに東京都障害者総合スポーツセンターの受託運営を、社団法人東京都障害者スポーツ協会へ移管

#### <特記事項>

- 平成12(2000)年6月27日■
  - ・財団法人日本体育協会へ加盟
- 平成14(2002)年■
  - ・日本アンチ・ドーピング機構(JADA)に加盟
- 平成14(2002)年12月24日■
  - ・障害者スポーツの振興について、(財)日本障害者スポーツ協会を中心として進めることが新障害者基本計画で明文化された(分野別施策の基本的方向 2生活支援 (2)施策の基本的方向 ⑤スポーツ、文化芸術活動の振興)
- 平成15(2003)4月7日■
  - ・(財)日本オリンピック委員会、(財)日本体育協会、(財)日本障害者スポーツ協会の三者により、競技者と競技団体間の紛争を仲裁する日本スポーツ仲裁機構(JSAA)を設立
- 平成15(2003)年10月28日■
  - ・法人税法及び所得税法において「特定公益増進法人」として厚生労働大臣認可を受ける
- 平成23(2011)年12月1日■
  - ・内閣府認定のもと「公益財団法人」として設立登記
- 平成24(2012)年6月26日■
  - ・日本パラリンピック委員会運営委員会委員、副委員長の定数変更
- 平成26(2014)年8月6日
  - ・公益財団法人日本障がい者スポーツ協会に名称変更

## (2)障がい者スポーツセンター

昭和40年頃のわが国の公共スポーツ施設の多くは、障がいのある人々が利用することを想定して作られていなかった。さらに、貸館的な施設運営をしていることが多く、障がいのある人々が、一人で気軽に利用できない状況にあった。

このような中、昭和49(1974)年5月、在宅の身体障がい者を対象としたスポーツセンター（現 大阪市長居障がい者スポーツセンター）が大阪市に開設された。同センターでは、個人利用に重点を置いた運営を行い、障がいのある人々の生涯スポーツの実践に大きな成果を挙げた。その後、昭和55(1980)年より段階的に同様の施設が全国で開館した(平成27(2015)年1月現在25か所)。

なお、各施設における運営上の諸問題等に関する意見交換や交流の場として、昭和59(1984)年に「身体障害者スポーツセンター協議会(現 障がい者スポーツセンター協議会)」が発足した。

## (3)都道府県・指定都市障がい者スポーツ協会

昭和48(1973)年、厚生省社会局更生課長通知「身体障害者スポーツの振興等について」などにより、身体障がい者スポーツ協会などの設立に向けて動きだした。これにより、各都道府県・指定都市単位の障がい者スポーツ振興が促進されるようになった。

各県におけるスポーツの振興や交流の場として、平成2(1990)年に「身体障害者スポーツ協会連絡協議会」が発足した。また平成11(1999)年には、財団法人日本身体障害者スポーツ協会の寄附行為改正に伴い「障害者スポーツ協会協議会」として協会組織に位置づけられた。

## (4)障がい者スポーツ競技団体

わが国でいち早く設立された競技団体は、昭和38(1963)年の日本ろうあ体育協会(現 全日本ろうあ連盟スポーツ委員会)であった。

その後、1970年代に入ると、身体障がい者スキー、車椅子バスケットボール、アーチェリーの各組織が設立された。また、1980年代に入ると、卓球、水泳等7団体が設立された。さらに、1990年代に入ると、障がい者優先利用スポーツ施設の増加と相まって競技団体が増加していった(28団体増加)。

なお、競技団体間の情報交換の場として、平成元(1989)年に「種目別競技団体協議会」が発足した。また平成11(1999)年には、財団法人日本身体障害者スポーツ協会の寄附行為改正に伴い「障害者スポーツ競技団体協議会」として協会組織に位置づけられた。

## (5)障がい者スポーツ指導者協議会

昭和60(1985)年に「財団法人日本身体障害者スポーツ協会公認身体障害者スポーツ指導者制度」制定後、各都道府県・指定都市の指導者によって都道府県・指定都市単位の指導者協議会が発足されるようになった。これにより、県内における指導者間の情報交換や指導活動が促進されるようになった。その後、平成6(1994)年に全国8ブロックからなる協議会が発足し、その代表者(ブロック長)による連絡・調整組織として、翌平成7(1995)年に「身体障害者スポーツ指導者代表者会議」が発足した。また、この組織は平成11(1999)年の財団法人日本身体障害者スポーツ協会の寄附行為改正に伴い「障害者スポーツ指導者協議会」として協会組織に位置づけられた。

### 障がい者スポーツセンター協議会

No	開館年	名称
1	1974	大阪市長居障がい者スポーツセンター
2	1981	名古屋市障害者スポーツセンター
3	1983	広島市中心身障害者福祉センター
4	1984	福岡市立障がい者スポーツセンター(さんさんプラザ)
5	1984	東京都多摩障害者スポーツセンター
6	1985	西宮市総合福祉センター
7	1986	東京都障害者総合スポーツセンター
8	1986	かがわ総合リハビリテーション福祉センター
9	1986	大阪府立障害者交流促進センター(ファインプラザ大阪)
10	1988	京都市障害者スポーツセンター
11	1990	埼玉県障害者交流センター
12	1990	滋賀県立障害者福祉センター
13	1991	群馬県立ふれあいスポーツプラザ

No	開館年	名称
14	1992	障害者スポーツ文化センター(横浜ラポール)
15	1994	ふれあいランド岩手
16	1994	神戸市立市民福祉スポーツセンター
17	1996	広島県立障害者リハビリテーションセンタースポーツ交流センター(おりづる)
18	1996	高知県立障害者スポーツセンター
19	1997	大阪市舞洲障がい者スポーツセンター(アミティ舞洲)
20	1997	新潟県障害者交流センター(新潟ふれあい愛プラザ)
21	1997	群馬県立ゆうあいピック記念温水プール
22	1998	長野県障害者福祉センター(サンアップル)
23	2000	鹿児島県障害者自立交流センター(ハートピアかごしま)
24	2012	堺市立健康福祉プラザスポーツセンター
25	2012	北九州市障害者スポーツセンター アレアス

## 障がい者スポーツ協会協議会

平成26年2月現在

No	団体名	設立年
1	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 福祉生きがいセンター障害者福祉・スポーツ部	1952
2	大分県障がい者体育協会	1961
3	NPO 法人青森県障害者スポーツ協会	1970
4	京都障害者スポーツ振興会	1971
5	宮崎県障害者スポーツ協会	1973
6	社会福祉法人大阪市障害者福祉・スポーツ協会	1977
7	滋賀県障害者スポーツ協会	1977
8	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会	1978
9	鹿児島県障害者スポーツ協会	1978
10	福岡市障がい者スポーツ協会	1984
11	公益財団法人北海道障害者スポーツ振興協会	1985
12	山形県障がい者スポーツ協会	1987
13	一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会	1987
14	公益社団法人京都市障害者スポーツ協会	1988
15	山梨県障害者スポーツ協会	1988
16	宮城県障害者スポーツ協会	1988
17	NPO 法人栃木県障害者スポーツ協会	1989
18	福岡県障害者スポーツ協会	1989
19	北九州市障害者スポーツ協会	1989
20	仙台市障害者スポーツ協会	1991
21	名古屋市障害者スポーツ協会	1992
22	社会福祉法人高知県社会福祉協議会 高知県立 障害者スポーツセンター	1992
23	公益財団法人神奈川県身体障害者連合会	1993
24	愛媛県障害者スポーツ協会	1993
25	一般社団法人千葉県障害者 スポーツ・レクリエーション協会	1994
26	NPO 法人長野県障がい者スポーツ協会	1994
27	富山県障害者スポーツ協会	1995
28	茨城県障害者スポーツ・文化協会	1995
29	社会福祉法人徳島県社会福祉事業団 ノーマライゼーション促進センター	1996
30	熊本県障害者スポーツ・文化協会	1996

No	団体名	設立年
31	公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会	1996
32	大阪府障がい者スポーツ振興協会	1998
33	岩手県障がい者社会参加推進センター	1998
34	新潟県障害者スポーツ協会	1999
35	公益財団法人島根県障害者スポーツ協会	2000
36	岡山県障害者スポーツ協会	2000
37	奈良県障害者スポーツ協会	2001
38	一般社団法人秋田県障害者スポーツ協会	2001
39	一般社団法人札幌市障がい者スポーツ協会	2001
40	一般社団法人佐賀県障がい者スポーツ協会	2001
41	三重県障害者スポーツ協会	2001
42	公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会	2002
43	岐阜県障害者スポーツ協会	2002
44	一般社団法人山口県障害者スポーツ協会	2002
45	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会	2003
46	石川県障害者スポーツ協会	2004
47	長崎県障害者スポーツ協会	2004
48	一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会	2004
49	和歌山県障害者スポーツ協会	2005
50	広島市障害者スポーツ協会	2005
51	社会福祉法人神戸市社会福祉協議会 障害者スポーツ振興センター	2011
52	群馬県障害者スポーツ協会	2012 身1985 知1993
53	NPO 法人沖縄県障がい者スポーツ協会	2012
54	しあわせ福井スポーツ協会	2014
55	香川県障害者スポーツ協会	2014

障がい者スポーツ競技団体協議会

平成26年2月現在

No	団体名	設立年
1	一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会	1963
2	一般財団法人日本車椅子バスケットボール連盟	1975
3	日本身体障害者アーチェリー連盟	1976
4	日本肢体不自由者卓球協会	1981
5	NPO 法人日本盲人マラソン協会	1983
6	一般財団法人日本身体障がい者水泳連盟	1984
7	社会福祉法人日本盲人会連合スポーツ協議会	1985
8	NPO 法人日本視覚障害者柔道連盟	1986
9	日本車椅子ツインバスケットボール連盟	1988
10	一般社団法人日本パラ陸上競技連盟	1988
11	日本障害者バドミントン協会	1990
12	NPO 法人日本障害者スポーツ射撃連盟	1990
13	NPO 法人日本障害者セーリング協会	1990
14	一般社団法人日本パラサイクリング連盟	1990
15	日本ブラインドテニス連盟	1990
16	日本車いすテニス協会	1991
17	NPO 法人日本障害者ゴルフ協会	1991
18	日本身体障害者野球連盟	1993
19	NPO 法人日本車いすダンススポーツ連盟	1993
20	日本ゴールボール協会	1994
21	NPO 法人日本視覚障害ゴルフアース協会	1994
22	公益財団法人スペシャルオリンピックス日本	1994
23	一般社団法人日本障害者乗馬協会	1995
24	日本聴覚障がい者ラグビー連盟	1995
25	日本電動車椅子サッカー協会	1995
26	日本障害者カヌー協会	1995
27	日本障害者シンクロナイズドスイミング協会	1996
28	日本ウィルチェアラグビー連盟	1997
29	日本パラバレーボール協会	1997
30	NPO 法人日本デフゴルフ協会	1997

No	団体名	設立年
31	NPO 法人日本バリアフリーダイビング協会	1997
32	日本ボッチャ協会	1997
33	日本障害者フライングディスク連盟	1998
34	日本車いすフェンシング協会	1998
35	全日本グランドソフトボール連盟	1998
36	日本視覚障害者卓球連盟	1998
37	日本フロアバレーボール連盟	1998
38	公益財団法人日本トリアスロン連合	1999
39	日本知的障がい者サッカー連盟	1999
40	日本知的障害者卓球連盟	1999
41	日本FIDバスケットボール連盟	1999
42	NPO 法人日本パラ・パワーリフティング連盟	1999
43	一般社団法人日本知的障害者水泳連盟	1999
44	NPO 法人日本知的障害者スポーツ連盟	2000
45	全日本車椅子空手道連盟	2000
46	日本脳性麻痺7人制サッカー協会	2001
47	NPO 法人日本障害者スキー連盟	2001
48	日本ブラインドサッカー協会	2002
49	NPO 法人日本車椅子ビリヤード協会	2002
50	日本ろう者水泳協会	2002
51	日本障害者ローンボウルズ連盟	2003
52	日本車椅子ハンドボール連盟	2003
53	全日本視覚障害者ボウリング協会	2004
54	NPO 法人日本知的障害者陸上競技連盟	2005
55	NPO 法人日本パラローイング協会	2006
56	日本アイススレッジホッケー協会	2006
57	日本チェアカーリング協会	2007
58	公益財団法人日本精神保健福祉連盟 精神障害者スポーツ推進委員会	2007
59	日本肢体障害者ボウリング連盟	2008

## 障がい者スポーツ指導者協議会

平成26年2月現在

No	名 称	設立年
----	-----	-----

### 北海道ブロック

1	北海道障害者スポーツ指導者協議会	1986
---	------------------	------

### 東北ブロック

2	青森県障害者スポーツ指導員会	1999
3	岩手県障がい者スポーツ指導者協議会	2002
4	宮城県障害者スポーツ指導者協議会	1994
5	仙台市障害者スポーツ指導者協議会	1997
6	秋田県障害者スポーツ指導者協議会	2002
7	山形県障害者スポーツ指導者協議会	1995
8	福島県障害者スポーツ指導者協議会	1998

### 関東ブロック

9	茨城県障害者スポーツ指導者協議会	1995
10	栃木県障害者スポーツ指導者協議会	2002
11	群馬県障害者スポーツ指導者協議会	2001
12	埼玉県障害者スポーツ指導者協議会	1995
13	千葉障害者スポーツ指導者協議会	2001
14	東京都障害者スポーツ指導員協議会	1988
15	神奈川県障害者スポーツ指導者協議会	1998
16	横浜市障害者スポーツ指導者協議会	1998
17	川崎市障害者スポーツ指導者協議会	2002
18	山梨県障害者スポーツ指導員連絡協議会	1996

### 北信越ブロック

19	新潟県障害者スポーツ指導者協議会	1994
20	富山県障害者スポーツ指導者協議会	1997
21	石川県障害者スポーツ指導者協議会	1997
22	福井県障害者スポーツ指導者協議会	1999
23	長野県障害者スポーツ指導者協議会	1989

### 中部・東海ブロック

24	岐阜県障害者スポーツ指導者協議会	2003
25	静岡県障害者スポーツ指導者協議会	1995
26	愛知県障害者スポーツ指導者協議会	1990
27	名古屋市障害者スポーツ指導者協議会	1992
28	三重県障害者スポーツ指導者協議会	2000

No	名 称	設立年
----	-----	-----

### 近畿ブロック

29	滋賀県障害者スポーツ指導者協議会	1998
30	京都障害者スポーツ指導者協議会	2005
31	大阪障害者スポーツ指導者協議会	1999
32	ひょうご障害者スポーツ指導者協議会	1999
33	奈良県障害者スポーツ指導者協議会	1990
34	和歌山県障害者スポーツ指導者協議会	2005

### 中・四国ブロック

35	島根県障害者スポーツ指導者協議会	2000
36	鳥取県障がい者スポーツ指導者協議会	1997
37	岡山県障害者スポーツ指導者連絡協議会	1998
38	広島県障害者スポーツ指導者協議会	1992
39	山口県障害者スポーツ指導者協議会	2000
40	徳島県障害者スポーツ指導者協議会	1997
41	香川県障害者スポーツ指導者協議会	1998
42	愛媛県障害者スポーツ指導者協議会	1996
43	高知県障害者スポーツ指導者協議会	1992

### 九州ブロック

44	福岡障害者スポーツ指導者協議会	1993
45	佐賀県障害者スポーツ指導者協議会	2000
46	長崎県障害者スポーツ指導者協議会	1996
47	熊本障害者スポーツ指導者協議会	1994
48	大分県障害者スポーツ指導者協議会	1992
49	宮崎県障がい者スポーツ指導者協議会	2003
50	鹿児島県障害者スポーツ指導者協議会	1999
51	沖縄県障害者スポーツ指導者連絡協議会	1992



## 2. スポーツ大会の開催

### (1) 都道府県・指定都市身体障がい者スポーツ大会

わが国における身体障がい者を対象としたスポーツ大会が開催された記録は、第一次世界大戦終了後、視覚障がい者や聴覚障がい者を対象にしたものとしてわずかに残されている。

また、都道府県が主催する身体障がい者スポーツ大会は、東京都は昭和26(1951)年、埼玉県は昭和27(1952)年、長野県は昭和33(1958)年、大分県は昭和36(1961)年にはじまり、以後毎年開催されるようになった。

昭和38(1963)年、パラリンピック東京大会の前年、厚生省社会局長通知(5月20日付、社発第370号)として各都道府県知事・指定都市市長宛に、身体障がい者スポーツの振興を積極的に進めること、またそのためにスポーツ大会の運営費に対し予算補助を行うこと等の通知されたことにより、ほとんどの都道府県が同年より県大会を実施するようになった。

さらに、国民体育大会の開催地であった山口県では、パラリンピックの東京大会開催決定を受けて、1都8県(埼玉、神奈川、岡山、広島、鳥根、山口、福岡、大分)から468名(肢体239名、視覚92名、聴覚137名)の選手を集め「身体障害者体育大会山口大会」を開催、パラリンピック東京大会の開催に弾みをつける大会となった。

### (2) パラリンピック東京大会

昭和39(1964)年に開催されたパラリンピック東京大会は、第1部国際大会(第13回国際ストック・マンデビル競技大会)と、海外選手を含むすべての身体障がい者を対象とした第2部国内大会で構成された。

5日間にわたり行われた第1部国際大会には、21か国より567名(選手378名、役員189名)が参加した。また2日間にわたり行われた第2部国内大会には、592名(選手481名、役員111名)が参加した。

大会の正式名称は「国際身体障害者スポーツ大会」であったが、4年に1度オリンピック開催年に行われる国際ストック・マンデビル競技大会の愛称「パラリンピック<対麻痺(Paraplegia)選手のオリンピックの意>」が新聞等により連日報道されたことから、わが国ではパラリンピックの名称が広く知られるところとなった(国際パラリンピック委員会(IPC)設立後に第2回パラリンピック夏季競技大会に位置づけられた)。

## パラリンピック東京大会

大会名●国際身体障害者スポーツ大会  
主催●財団法人国際身体障害者スポーツ大会運営委員会  
大会名誉総裁●皇太子殿下  
会長●葛西嘉資

### <第1部国際大会(東京1964パラリンピック競技大会)>

#### [期間]

昭和39年11月8日～12日(5日間)

#### [参加数]

全体：567名(選手378名、役員189名)

日本選手団：84名(選手53名、役員31名)

#### [参加国(21か国)]

アルゼンチン、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、セイロン、フィジー、フランス、ドイツ、イギリス、イスラエル、アイルランド、イタリア、マルタ、オランダ、フィリピン、ローデシア、スイス、スウェーデン、南アフリカ、アメリカ、日本

#### [実施競技]

洋弓、ダーチェリー、車椅子バスケットボール、フェンシング、トラック競技(車椅子スラローム、車椅子競走、車椅子レース)、フィールド競技(槍投、槍正確投、砲丸投、円盤投、こん棒投)、重量挙、五種競技、スノーカー、卓球、水泳

### <第2部国内大会>

#### [期間]

11月13日～14日(2日間)

#### [参加数]

全体：592名(選手481名、役員111名)

日本選手団：585名(選手475名、役員110名)

西ドイツ選手団：7名(選手6名、役員1名)

#### [参加国(2か国)]

西ドイツ、日本

#### [実施競技]

陸上競技(60m競走、100m競走、200m競走、400m競走、1500m競走、5000m競走、100m円周走、100m障害競走、車椅子スラローム、立幅跳、走幅跳、走高跳、三段跳、砲丸投、こん棒投、槍正確投、ソフトボール投)、水泳、卓球、洋弓

### (3)全国身体障害者スポーツ大会

昭和39(1964)年に開催された「国際身体障害者スポーツ大会」(パラリンピック東京大会)の成功を踏まえ、わが国の身体障がい者のスポーツの振興を積極的に推進する具体的方策として「全国身体障害者スポーツ大会」の開催が決定した。

これに伴い、同大会の概要説明並びに選手派遣に伴う予算措置の要請について、厚生省社会局長名で各都道府県・指定都市長宛に通知された。通知内容は次の通り。

社更第380号  
昭和40年6月25日

都道府県知事  
各 殿  
指定都市市長

厚生省社会局長

#### 全国身体障害者スポーツ大会について

昨年11月我が国で開催された国際身体障害者スポーツ大会(パラリンピック)が身体障害者の自立更生の促進と一般国民の身体障害者に対する関心と理解を深める等我が国における身体障害者の更生援護に大きく寄与したことは、すでにご了知のところであるが、国においても身体障害者福祉施策の一環として、今後より一層、身体障害者のスポーツの振興を積極的に推進することとし、その具体的方策として、昭和40年度より全国身体障害者スポーツ大会(以下「大会」という。)を開催することとしたので、次の事項に留意のうえ、これが参加の予算措置及び準備等につき、各段のご配慮を煩わしたい。

#### 1.大会実施の意義

大会の開催は、この大会に参加した全国の身体障害者がスポーツを通じて体力の維持、増強、残存能力の向上及び心理的更生等の効果を図るとともに、一般国民については、身体障害者に対する深い理解と関心の高揚を図り併せて我が国における身体障害者の自立更生の助長に寄与することが大であること。

#### 2.大会の主催者

大会の主催者は、厚生省、大会開催都道府県(指定都市も含む。以下同じ。)、財団法人日本身体障害者スポーツ協会及びその他の関係団体との共催により開催するものであること。

#### 3.大会実施の概要

##### (1)大会開催期日等

大会開催期日については、各都道府県の参加選手の選出その他の諸準備等を考慮し、原則として毎年実施される秋季国民体育大会の直後とし、大会開催場所は当該国民体育大会開催都道府県において実施するものとする。

##### (2)施設

競技場等の諸施設については、国民体育大会として使用された施設を原則として利用するものであること。

##### (3)参加選手の割当て

参加選手の割当ては、大会開催年度の前年度の12月末日現在の身体障害者手帳交付台帳登録数を基準として各都道府県別に参加選手数を決定するものであること。

#### 4.大会の実施細目

大会実施に関する細目については、開催の都度、別途通知するところであるが、管下の関係機関、関係諸団体及び身体障害者に対する周知徹底については遺漏のないよう配慮されたいこと。

#### 5.大会への参加

大会開催の趣旨に照らし、すべての都道府県から身体障害者の参加が期待されるので、これがための諸準備及び参加費用の予算化については、各段の考慮を煩わしいこと。

第1回大会は、昭和40(1965)年11月6～7日に岐阜県で開催された。以後、平成12(2000)年の第36回大会(富山県)まで毎年開催され、わが国身体障がい者のスポーツの普及・振興に多大な成果を挙げた。



全国身体障害者スポーツ大会

回	年	西暦	期日	開催県	選手数	役員数	皇室	スローガン	備考
1	S40	1965	11月6～7日	岐阜県	523	461	皇太子殿下	明るく つよく	皇太子殿下地元選手ご激励(選手の集い)
2	S41	1966	11月5～6日	大分県	541	586	皇太子殿下 皇太子妃殿下	敗北なき人々	両殿下地元選手のご激励(選手の集い) オーストリア・ウエクセルベルガー博士招待
3	S42	1967	11月4～5日	埼玉県	592	630	皇太子殿下 皇太子妃殿下	愛と希望の祭典	選手村(新設の公営住宅)前夜祭
4	S43	1968	10月12～13日	福井県	594	679	皇太子殿下	忍耐と努力に栄光を	敢闘賞(鉄メダル)創設
5	S44	1969	11月8～9日	長崎県	596	643	皇太子殿下	自助の祭典	はじめて女子短大生の手話奉仕制度がはじまる。
6	S45	1970	11月24～25日	岩手県	590	621	皇太子殿下 皇太子妃殿下	あすを築く自立の祭典	水泳は行わず。オーストリア選手12名参加
7	S46	1971	11月6～7日	和歌山県	601	508	皇太子殿下 皇太子妃殿下	希望にみちて たくましく	FM実況放送実施
8	S47	1972	11月11～12日	鹿児島県	717	628	皇太子殿下 皇太子妃殿下	がんばるぞ 熱と力と根性で	団体競技車椅子バスケットボールが始まる。
9	S48	1973	10月27～28日	千葉県	840	1,067	皇太子殿下 皇太子妃殿下	「若潮大会」 くじけるな まけるな 強く胸張って	団体競技盲人野球が始まる。
10	S49	1974	11月2～3日	茨城県	830	1,281	皇太子殿下 皇太子妃殿下	「まごころ大会」 友愛と希望で結ぶ集いの輪	
11	S50	1975	11月8～9日	三重県	853	1,289	皇太子殿下 皇太子妃殿下	友愛の輪から わく夢 わく力	両殿下 地元選手の練習御覧
12	S51	1976	11月6～7日	佐賀県	838	893	皇太子殿下 皇太子妃殿下	「若楠大会」 がんばってはげましあってわ く希望	
13	S52	1977	10月15～16日	青森県	861	595	皇太子殿下 皇太子妃殿下	ひろげよう 愛の輪 夢の輪 力の輪	デモンストレーションとして女子車椅子バスケットボール競技を行う。後夜祭開始 記念たばこの発売
14	S53	1978	10月28～29日	長野県	869	1,021	皇太子殿下 皇太子妃殿下	「やまびこ大会」 さわやかに あたたかく ひたむきに	雨のため、閉会式は体育館で実施
15	S54	1979	11月27～28日	宮崎県	902	631	皇太子殿下 皇太子妃殿下	ふれあう心あふれる力のびゆ く郷土	身体障害者福祉法制度30周年記念大会
16	S55	1980	10月25～26日	栃木県	908	805	皇太子殿下 皇太子妃殿下	やります できます このからだ	香港フェスティック関係者視察
17	S56	1981	10月24～25日	滋賀県	940	722	皇太子殿下 皇太子妃殿下	「びわこ大会」 わたしにもこんな力が生きが いが	国際障害者年記念大会。アジア地域等より18か国160名の選手・役員を招待(バングラディッシュ、ビルマ、ブータン、フィジー、香港、インド、インドネシア、大韓民国、マカオ、マレーシア、ネパール、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、トンガ、グアム、アメリカ)
18	S57	1982	10月16～17日	島根県	1,039	769	皇太子殿下 皇太子妃殿下	「ふれあい大会」 手をつなぎ 心をつないで わく力	団体競技として聴覚障がい者バレーボール(女子)が始まる。女子男子交互に行う(第19回大会は男子)
19	S58	1983	10月29～30日	群馬県	1,101	791	皇太子殿下 皇太子妃殿下	「愛のあかぎ大会」 飛びだそう 今 ひかりの中に	
20	S59	1984	10月27～28日	奈良県	1,113	813	皇太子殿下 皇太子妃殿下	「わかくさ大会」 この力伸ばそう生かそうたく ましく	ソウルパラリンピック関係者視察

回	年	西暦	期 日	開催県	選手数	役員数	皇室	スローガン	備 考
21	S60	1985	11月2～3日	鳥取県	1,123	786	皇太子殿下 皇太子妃殿下	「わかとり大会」 はばたこう 夢と希望の輪をひろげ	ソウルパラリンピック関係者視察
22	S61	1986	10月25～26日	山梨県	1,123	289	皇太子殿下 皇太子妃殿下	「ふれあいのかいじ大会」 やまなみに ひびけ とどろけ このちから	同上。大会運営への障がい者の参加
23	S62	1987	11月14～15日	沖縄県	1,957	796	皇太子殿下 皇太子妃殿下	「かりゆし大会」 翔べフェニックス 紺碧の空に	ソウルパラリンピック関係者視察。国際障害者年の中間年及び沖縄本土復帰15周年記念大会。アジア地域より10か国40名の選手役員を招待(ブルネイ、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、香港、台湾)
24	S63	1988	10月29～30日	京都府	1,228	862	浩宮殿下	「愛とふれあいの京都大会」 さわやかな汗よ 笑顔よ 友情よ	団体競技聴覚障がい者バレーボール(女子・男子同時実施)。公開競技(車いす駅伝、卓球バレー)。開会式に選手等に椅子を提供
25	H1	1989	9月30日～10月1日	北海道	1,266	942	天皇陛下 皇后陛下	「希望と友愛のはまなす大会」 君がうて 希望の鐘をエルムのまちに	公開競技(車いすマラソン)。
26	H2	1990	11月3～4日	福岡県	1,377	988	皇太子殿下	「ときめきのとびうめ大会」 ふりむくなちからの限り飛び 立とう	皇太子殿下福岡県福岡市選手団の激励会にご出席。公開競技(車いすテニス、ボウリング)。
27	H3	1991	10月26～27日	石川県	1,242	990	皇太子殿下	「ほほえみの石川大会」 ほほえみに 広がる友情 わく力	皇太子殿下石川県選手団激励パーティーにご出席。公開競技実施はせず。
28	H4	1992	10月18～19日	山形県	1,244	971	皇太子殿下	「輝きのべにばな大会」 思いつきり のびやかに さわやかに	皇太子殿下山形選手団激励パーティーにご出席。公開競技は実施せず。アジア地域より10か国80名の選手役員を招待(ブルネイ、中国、インドネシア、韓国、マレーシア・フィリピン・シンガポール・タイ・香港・台湾)
29	H5	1993	11月6～7日	徳島県	1,236	1,018	皇太子殿下 皇太子妃殿下	「躍動のうずしお大会」 今、飛び立とう 友と心の手をつなぎ	皇太子殿下、皇太子妃殿下徳島県選手団躍動パーティーにご出席。公開競技はせず。
30	H6	1994	11月12～13日	愛知県	1,321	1,091	秋篠宮殿下	「ゆめびっくあいち」 あなたがタッチ 心のバトン	秋篠宮殿下愛知県名古屋市選手団激励会にご出席。公開競技(車椅子ツインバスケットボール、バドミントン)。
31	H7	1995	10月28～29日	福島県	1,245	1,026	皇太子殿下 皇太子妃殿下	「うつくしまふくしま大会」 つなぐ手に あふれる感動 わく勇気	皇太子殿下、皇太子妃殿下福島県選手団激励会にご出席。公開競技は実施せず。
32	H8	1996	10月26～27日	広島県	1,291	1,045	皇太子殿下 皇太子妃殿下	「おりづる大会ひろしま」 げんき かがやけ!	皇太子殿下、皇太子妃殿下広島県選手団結団式にご出席。公開競技(車椅子テニス)。ソウル盲学校を招聘、式典で演奏披露。
33	H9	1997	11月2～3日	大阪府	1,245	1,087	皇太子殿下 皇太子妃殿下	「ふれ愛びっく大阪」 ときめいて今 はばたいて未来	個人競技の2回目出場を認める(但し個人競技参加者の1/3以内)。1部39歳以下2部40歳以上に分けて競技する。年間を通じて競技会を開催(アイススレッジホッケー、電動車椅子サッカー)(視覚テニス、カヌーは天候不良で中止)
34	H10	1998	11月7～8日	神奈川県	1,368	1,104	皇太子殿下 皇太子妃殿下	「かながわ・ゆめ大会」 あなたと握手 あなたに 拍手	皇太子殿下、皇太子妃殿下地元選手団交流会にご出席。公開競技(盲人マラソン、ビームライフル、フロアバレーボール、車いすテニス)。
35	H11	1999	11月6～7日	熊本県	1,263	992	皇太子殿下 皇太子妃殿下	「ハートフルくまもと大会」 がんばるが、いっぱい。	公開競技は実施せず。
36	H12	2000	10月28～29日	富山県	1,259	998	皇太子殿下 皇太子妃殿下	「きらりんっびっく富山」 自分にチャレンジ!あしたに チャレンジ!!	公開競技は実施せず。
第36回までの合計					36,636				

(注) 参加選手は、公開競技の参加者は含まない。

#### (4)全国知的障害者スポーツ大会(ゆうあいピック)

知的障がい者のスポーツは、1960年代まで入所施設、養護学校、特殊学級等での体育訓練や体育的行事等に限られ、身体障がい者のスポーツに比べ立ち遅れていた。その後、1970年代になると、都道府県内の入所施設合同大会や養護学校体育大会等が開催されはじめ、次第に全国規模の大会開催が関係者の間で望まれるようになった。

そこで厚生省(当時)は、「国連・障害者の十年」の最終年を契機として、1992年から「全国知的障害者スポーツ大会」を開催することを決定した。また実施にあたっては、全国身体障害者スポーツ大会をモデルとして、都道府県・指定都市を単位とする選手団の参加を得て毎年行うこととなった。なお、大会開催地は、開催を希望する都道府県の中から厚生大臣が決定することとした。

全国知的障害者スポーツ大会 年表

回	年	西暦	期日	開催県	選手数	役員数	皇室	スローガン	備考
1	H4	1992	11月21～22日	東京都	1,736 (527)	1,123	皇太子殿下	手をつなぎ、この感動を分かちあおう	
2	H5	1993	10月16～17日	熊本県	2,103 (717)	1,298	高円宮殿下 高円宮妃殿下	であい 友愛 わかちあい	フットベースボールの追加
3	H6	1994	10月15～16日	群馬県	2,268 (705)	1,423	高円宮殿下 高円宮妃殿下	いま 君がすばらしい	
4	H7	1995	-	兵庫県	-	-	-	-	阪神・淡路大震災により中止
5	H8	1996	9月21～22日	北海道	2,646 (824)	1,626	高円宮殿下 高円宮妃殿下	友 いま集い 愛 いまあふれ	公開競技(相撲)
6	H9	1997	10月18～19日	愛知県	2,868 (944)	1,669	高円宮殿下 高円宮妃殿下	力いっぱい、愛いっぱい	
7	H10	1998	10月17～18日	茨城県	2,614 (914)	1,590	高円宮殿下 高円宮妃殿下	いい友 いい愛 いい心	
8	H11	1999	10月2～3日	島根県	2,601 (888)	1,525	高円宮殿下 高円宮妃殿下	「ゆうあいびっく島根大会」 光る汗 光る笑顔に 光る愛	
9	H12	2000	10月21～22日	岐阜県	2,722 (985)	1,591	高円宮殿下 高円宮妃殿下	「ゆうあいびっく岐阜大会」 今 きみがいちばん光ってる	

(注)選手数の( )内は、団体競技参加者数(再掲)

#### (5)全国障害者スポーツ大会

平成7(1995)年に決定された「障害者プラン」に基づき、翌年から障がい者の行政が「障害者保健福祉部」という形で統合された。また、国際的な動向として、従来行われていた身体障がい者のスポーツ大会に知的障がい者も参加するようになってきた。

このような状況下、平成10(1998)年4月より3回にわたり開催された厚生省事務次官による私的懇談会「障害者スポーツに関する懇談会」において、「現在別々に開催されている全国身体障害者スポーツ大会とゆうあいピックについて、21世紀の初頭を目前に、競技性も加味しつつ統合実施を行うべきである」と報告された。

厚生省ではこの報告を受け、平成13(2001)年に開催される宮城大会より両大会を統合して実施する旨を障害保健福祉部長名で各都道府県知事・指定都市市長宛に通知した(平成10年7月16日付)。

また、財団法人日本身体障害者スポーツ協会では、「全国身体障害者スポーツ大会とゆうあいピックの統合に関する検討委員会」を組織し、平成10(1998)年8月より5回にわたり会議を行い、円滑な大会運営の推進に必要な各種事項について検討した。

そして平成13(2001)年より、昭和40(1965)年より36回にわたり開催されてきた全国身体障害者スポーツ大会と、平成4(1992)年より8回(第4回大会中止)にわたり開催され

てきた全国知的障害者スポーツ大会(ゆうあいピック)が統合され、新たに「全国障害者スポーツ大会」として開催されることとなった。

なお、この全国大会を開催するにあたり、全国身体障害者スポーツ大会及び全国知的障害者スポーツ大会で実施した競技種目や参加者数について、当面は現状を変えないということであったが、全国大会の開催基準要綱では、国が認定している障がい者のうち、精神障がい者と内部障がい者が参加不可能となっていた。このうち、精神障がい者は第1回全国大会からオープン競技としてバレーボールを実施しており全国大会に正式競技として取り入れる時期に来ていた。また内部障がい者は、全国の障がい者スポーツセンターなどで医学的な指導のもとスポーツ活動が見られることから、協会医学委員会から競技会への参加について一部導入してもよいのではないかとの意見が出されるなど、全国大会の見直しを求める機運が高まった。

そこで、上記内容を踏まえ精神障がい者と内部障がい者が参加できる競技種目の導入を前提に、開催基準要綱の改正について協会、厚生労働省、関係団体、学識経験者による検討委員会が開催され、次の事項が決定された(平成20年度に開催される第8回大分大会より適用)。

- 1.精神障がい者のバレーボールを正式競技として実施する。
- 2.内部障がい者の参加については、まずは、ほうこう又は直腸機能障がい者の個人競技への参加を認めることとした。

全国障害者スポーツ大会 年表

回	年	西暦	期日	開催県	選手数	役員数	皇室	スローガン	備考
1	H13	2001	10月27日～29日	宮城県	3,195	1,747	皇太子殿下 高円宮殿下 高円宮妃殿下	「翔く・新世紀みやぎ大会」 感動体感2001	
2	H14	2002	11月9日～11日	高知県	3,199 (163)	1,935	皇太子殿下 皇太子妃殿下 高円宮殿下 高円宮妃殿下	「よさこいピック高知」 みつめて夢 活かして力	オープン競技(バレーボール(精神障がい))
3	H15	2003	11月8日～10日	静岡県	3,289 (180)	2,089	皇太子殿下 皇太子妃殿下 桂宮殿下 高円宮妃殿下	「わかふじ大会」 静岡でかなえよう夢 つたえよう感動	オープン競技(バレーボール(精神障がい))
4	H16	2004	11月13日～15日	埼玉県	3,301 (120)	2,558	皇太子殿下 桂宮殿下	「彩の国まごころ大会」 ともに感動! とともに笑顔	オープン競技(バレーボール(精神障がい))
5	H17	2005	11月5日～7日	岡山県	3,212 (219)	2,035	皇太子殿下 桂宮殿下	「輝いて! おかやま大会」 あなたがキラリ☆	オープン競技(車いすテニス、バレー ボール(精神障がい))
6	H18	2006	10月14日～16日	兵庫県	3,261	2,071	皇太子殿下 桂宮殿下	「のじぎく兵庫大会」 はばたこう とともに今から ひょうごから	オープン競技(馬術、視覚障がい者サッ カー、ローンボウルズ、ビームライフ ル射撃、バレーボール(精神障がい))
7	H19	2007	10月13日～15日	秋田県	3,227	2,071	皇太子殿下 桂宮殿下	「秋田わか杉大会」 きっと出会える! 夢と感動	オープン競技(バレーボール(精神障がい))
8	H20	2008	10月11日～13日	大分県	3,202	2,000	皇太子殿下 桂宮殿下	「チャレンジ! おおいた大会」 笑顔、元気、ともに未来へ 新 たな一歩	バレーボール(精神障がい)が正式競技に 加わる。オープン競技(ふうせんバレー ボール、卓球バレー)
9	H21	2009	10月10日～12日	新潟県	3,231	2,164	皇太子殿下 高円宮妃殿下	「トキめき新潟大会」 トキはなて 君の力を 大空へ	オープン競技(車いすダンス、車椅子ツ インバスケットボール、フロアホッケー)
10	H22	2010	10月23日～25日	千葉県	3,238	1,925	皇太子殿下 高円宮妃殿下	「ゆめ半島千葉大会」 ゆめ半島 みんなが主役 花咲 く笑顔	オープン競技(ボッチャ、ライフル射撃、 車椅子ツインバスケットボール、車椅子 レクダンス)
11	H23	2011	10月22日～24日	山口県	3,238	2,166	皇太子殿下 高円宮妃殿下	「おいでませ! 山口大会」 君の一生けんめいに会いたい	オープン競技(卓球バレー)
12	H24	2012	10月13日～15日	岐阜県	3,165	2,150	皇太子殿下 高円宮妃殿下	「ぎふ清流大会」 輝け はばたけ だれもが主役	オープン競技(脳性まひ者7人制サッ カー、障害者ゴルフ、車椅子ツインバ スケットボール)
13	H25	2013	10月24日～26日	東京都	3,308	2,154	皇太子殿下 皇太子妃殿下 高円宮妃殿下	「スポーツ祭東京2013」 東京に多摩に島々に羽ばたけ アスリート	オープン競技(ウィルチェアラグ ビー、グラウンド・ゴルフ、車いすフェ ンシング、ゴールボール、視覚障害者 ボウリング、障害者シンクロナイズド スイミング、スポーツチャンバラ、ス ポーツ吹矢、精神障害者フットサル、 ダーツ、手のひら健康バレー、パドミ ントン、ハンドサッカー、ブラインド サッカー、ボート、ボッチャ、ユニカ ル)
14	H26	2014	11月1日～3日	長崎県	3,232	2,245	皇太子殿下 高円宮妃殿下	「長崎がんばらんば大会」 君の夢 はばたけ今 ながさ きから	オープン競技(ふうせんバレーボール、 視覚障害者ボウリング)

(注) 参加選手は、オープン競技の参加者は含まない。

## (6) ジャパンパラ競技大会

### ① 夏季競技大会

平成元(1989)年、国際パラリンピック委員会(IPC)が設立され、パラリンピックや競技別世界選手権大会がエリートスポーツ大会への道を歩みはじめるなど、世界の身体障がい者の競技スポーツはめまぐるしい動きをみせていた。

一方、わが国では、一生に一度しか参加できない「全国身体障害者スポーツ大会」の他、全国組織として活動する12の競技団体が自主運営する競技大会や、各種団体等の補助を受けて開催する競技大会などが行われていたが、世界の動向に対応したものではなかった。

このような状況下、平成2(1990)年6月、社会福祉・医療事業団法の一部改正により同事業団に長寿社会福祉基金が設けられ、その運用益により財源を生み出し在宅福祉事業が行われることが決定された。

これにより、財団法人日本身体障害者スポーツ協会では、「身体障害者スポーツ振興事業」として新たに事業を行うこととなった。

そこで、次回行われるバルセロナパラリンピックから標準記録の設定が厳しくなると予想される陸上競技と水泳について、競技団体と共催して平成3(1991)年度より開

### 陸上競技大会 年表

年	西暦	期日	会場	参加選手数			特記事項
				計	男子	女子	
H3	1991	9月28日	江戸川区陸上競技場	243	197	46	・海外選手を招待(韓国7名、タイ15名)
H4	1992	10月3日～4日	江戸川区陸上競技場	169	132	37	
H5	1993	10月2日～3日	江戸川区陸上競技場	232	193	39	
H6	1994	10月1日～2日	江戸川区陸上競技場	242	193	49	
H7	1995	9月30日～10月1日	江戸川区陸上競技場	256	208	48	
H8	1996	9月28日～29日	江戸川区陸上競技場	253	204	49	
H9	1997	10月4日～5日	江戸川区陸上競技場	242	198	44	
H10	1998	10月4日	江戸川区陸上競技場	267	215	52	
H11	1999	9月25日	江戸川区陸上競技場	231	181	50	・天皇陛下、皇后陛下ご観戦を賜る。 ・天皇陛下御即位10年記念大会として開催。
H12	2000	5月28日	大阪市長居第2競技場	165	119	46	
H13	2001	9月16日	高知県立春野総合運動公園	106	79	27	
H14	2002	9月7日～8日	岩沼市陸上競技場	121	99	22	
H15	2003	9月20日～21日	町田市陸上競技場	207	162	45	・この年からIPC公認大会として実施 ・世界新記録樹立1
H16	2004	5月23日	大阪市長居陸上競技場	170	135	35	・世界新記録樹立4
H17	2005	10月22日～23日	大阪市長居陸上競技場	151	111	40	
H18	2006	9月30日～10月1日	岡山県陸上競技場	320	247	73	・世界新記録樹立4
H19	2007	10月20日～21日	大阪市長居陸上競技場	275	210	65	・6か国(フランス、香港、アイルランド、ロシアシンガポール、スペイン)50名の海外選手が参加
H20	2008	6月22日	大阪市長居陸上競技場	221	174	47	
H21	2009	9月22日	大阪市長居陸上競技場	227	170	57	・天皇陛下御即位20年記念大会 ・香港より2名の選手が参加
H22	2010	7月31日～8月1日	仙台市陸上競技場	179	134	45	
H23	2011	9月24日～25日	大分市営陸上競技場	177	134	43	・韓国より2名、モンゴルより4名の選手が参加
H24	2012	6月2日～3日	大阪市長居陸上競技場	296	218	78	

催することを決定した。

なお、この大会をパラリンピックや世界選手権大会をめざすトップレベルの選手のための大会と位置づけ、さらに標準記録の設定をはじめ、国際組織のクラス分けを導入した。また、競技規則についても国際組織のものを適用した。

その後、平成10(1998)年度よりアーチェリー競技大会が加わり(オリンピックラウンドを採用)、平成26(2014)年度よりゴールボール競技大会、ウィルチェアーラグビー競技大会が加わった。

### ② 冬季競技大会

第7回パラリンピック冬季競技大会が平成10(1998)年3月に長野県下で開催されることが決定された。

そこで、財団法人日本身体障害者スポーツ協会では、当時、パラリンピック実施競技の中で唯一わが国で行われていたアルペンスキーのさらなる競技力向上と、クロスカントリースキー、アイススレッジスピードレース、アイススレッジホッケーを行う選手の発掘・育成・強化をすることを決定した。

そして、平成5(1993)年度よりスキー競技大会を、その翌年度よりアイススレッジ競技大会の開催をはじめた。

年	西暦	期日	会場	参加選手数			特記事項
				計	男子	女子	
H25	2013	9月7日～8日	維新百年記念公園陸上競技場	228	169	59	
H26	2014	9月6日～7日	維新百年記念公園陸上競技場	243	187	56	

### 水泳競技大会 年表

年	西暦	期日	会場	参加選手数			特記事項
				計	男子	女子	
H3	1991	11月24日	東京体育館室内プール	106	77	29	
H4	1992	11月29日	東京体育館室内プール	93	73	20	
H5	1993	11月28日	東京辰巳国際水泳場	96	63	33	
H6	1994	11月20日	東京辰巳国際水泳場	101	66	35	
H7	1995	11月26日	東京辰巳国際水泳場	119	79	40	
H8	1996	11月17日	東京辰巳国際水泳場	103	37	66	
H9	1997	11月16日	東京辰巳国際水泳場	113	76	37	
H10	1998	11月15日	なみはやドーム	129	94	35	
H11	1999	8月22日	なみはやドーム	146	101	45	
H12	2000	8月20日	なみはやドーム	141	99	42	
H13	2001	8月19日	なみはやドーム	161	113	48	
H14	2002	8月18日	なみはやドーム	171	113	58	
H15	2003	8月16日～17日	なみはやドーム	191	131	60	・この年からIPC公認大会として実施 ・IPC水泳公認クラス分け委員を招きIPCクラス分け研修を実施。・世界新記録樹立1
H16	2004	8月15日	なみはやドーム	165	112	53	
H17	2005	8月14日	なみはやドーム	148	100	48	
H18	2006	7月16日～17日	なみはやドーム	172	119	53	・IPC水泳公認クラス分け委員の招聘 ・世界新記録樹立1・4か国(メキシコ、マレーシア、韓国、香港)15名の海外選手が参加
H19	2007	8月18日～19日	なみはやドーム	187	127	60	・7か国(スイス、韓国、イギリス、ハンガリー、デンマーク、シンガポール、マレーシア)23名の海外選手が参加
H20	2008	7月20日	なみはやドーム	163	114	49	
H21	2009	7月20日	なみはやドーム	181	122	59	・天皇陛下御即位20年記念大会 ・韓国より2名の選手が参加
H22	2010	7月18日	なみはやドーム	197	134	63	
H23	2011	8月13日～14日	なみはやドーム	176	119	57	
H24	2012	7月15日～16日	なみはやドーム	221	151	70	
H25	2013	7月14日～15日	なみはやドーム	226	155	71	
H26	2014	7月20日～21日	なみはやドーム	252	179	73	

### アーチェリー競技大会 年表

年	西暦	期日	会場	参加選手数			特記事項
				計	男子	女子	
H10	1998	11月21日～22日	埼玉県障害者交流センター	50	44	6	
H11	1999	11月20日～21日	埼玉県障害者交流センター	46	39	7	
H12	2000	5月13日～14日	埼玉県障害者交流センター	41	34	7	・シドニーパラリンピック日本代表選手選考大会として実施
H13	2001	5月12日～13日	埼玉県障害者交流センター	50	44	6	
H14	2002	5月11日～12日	埼玉県障害者交流センター	43	36	7	・この年より埼玉県内高等学校との団体対抗戦を実施
H15	2003	5月10日～11日	埼玉県障害者交流センター	46	32	14	
H16	2004	5月8日～9日	埼玉県障害者交流センター	49	37	12	
H17	2005	7月23日～24日	埼玉県障害者交流センター	47	35	12	
H18	2006	7月15日～16日	埼玉県障害者交流センター	65	46	19	
H19	2007	7月21日～22日	埼玉県障害者交流センター	81	62	19	・韓国より6名の選手が参加
H20	2008	5月10日～11日	埼玉県障害者交流センター	68	49	19	
H21	2009	10月3日～4日	埼玉県障害者交流センター	57	43	14	・天皇陛下御即位20年記念大会 ・香港より13名、韓国より6名の選手が参加の選手が参加



年	西暦	期日	会場	参加選手数			特記事項
				計	男子	女子	
H22	2010	10月9日～10日	埼玉県障害者交流センター	58	43	15	・韓国より15名の選手が参加
H23	2011	10月8日～9日	埼玉県障害者交流センター	43	32	11	
H24	2012	10月6日～7日	埼玉県障害者交流センター	40	33	7	
H25	2013	9月28日～29日	埼玉県障害者交流センター	35	28	7	

#### ゴールボール競技大会 年表

年	西暦	期日	会場	チーム数	特記事項
H26	2014	8月8日～10日	有明スポーツセンター	4	オーストラリアよりチームを招聘

#### ウィルチェアラグビー競技大会 年表

年	西暦	期日	会場	チーム数	特記事項
H26	2014	10月10日～12日	千葉ポートアリーナ	4	カナダよりチームを招聘

#### アルペンスキー競技 年表

年	西暦	期日	会場	参加選手数			特記事項
				計	男子	女子	
H6	1994	2月18日～20日	ブランシュたかやまスキー場	130	109	21	・クロスカントリースキーと共に開催
H7	1995	3月3日～5日	ブランシュたかやまスキー場	81	71	10	・クロスカントリースキーと共に開催
H8	1996	3月8日～10日	ブランシュたかやまスキー場	69	53	16	・クロスカントリースキーと共に開催
H9	1997	3月1日～3日	ブランシュたかやまスキー場	130	111	19	・クロスカントリースキーと共に開催 ・12名の海外選手(韓国7名、ニュージーランド5名)受け入れ
H10	1998	-	-	-	-	-	・長野冬季パラリンピックのため実施せず
H11	1999	2月19日～21日	ブランシュたかやまスキー場	88	74	14	・クロスカントリースキーと共に開催
H12	2000	3月10日～12日	ARAI M&S PARK	108	93	15	・クロスカントリースキーと共に開催
H13	2001	3月9日～11日	ARAI M&S PARK	102	89	13	・クロスカントリースキーと共に開催
H14	2002	2月15日～17日	ARAI M&S PARK	106	93	13	・クロスカントリースキーと共に開催
H15	2003	3月7日～9日	安比高原スキー場	88	79	9	・この年より単独開催。
H16	2004	2月22日～24日	京王赤倉チャンピオンスキー場	76	69	7	
H17	2005	3月11日～13日	京王赤倉チャンピオンスキー場	70	62	8	
H18	2006	2月2日～5日	八方尾根スキー場	67	59	8	・この年からIPC公認大会として実施
H19	2007	2月1日～4日	八方尾根スキー場	62	53	9	
H20	2008	1月29日～30日	八方尾根スキー場	46	39	7	
H21	2009	3月20日～22日	八方尾根スキー場	41	37	4	・天皇陛下御即位20年記念大会
H22	2010	2月9日～10日	八方尾根スキー場	40	36	4	
H23	2011	3月20日～22日	八方尾根スキー場	-	-	-	・東日本大震災のため中止
H24	2012	3月22日～26日	八方尾根スキー場	51	43	8	・イランより1名、オーストラリアより5名の選手が参加
H25	2013	3月21日～24日	八方尾根スキー場	51	43	8	・韓国より2名、オーストラリアより2名の選手が参加
H26	2014	1月25日～28日	八方尾根スキー場	50	41	9	・韓国より2名の選手が参加
H27	2015	3月21日～24日	八方尾根スキー場				

#### クロスカントリースキー競技 年表

年	西暦	期日	会場	参加選手数			特記事項
				計	男子	女子	
H6	1994	2月18日～20日	ブランシュたかやまスキー場	16	13	3	・アルペンスキーと共に開催
H7	1995	3月3日～5日	ブランシュたかやまスキー場	12	11	1	・アルペンスキーと共に開催
H8	1996	3月8日～10日	ブランシュたかやまスキー場	-	-	-	・アルペンスキーと共に開催
H9	1997	3月1日～3日	ブランシュたかやまスキー場	30	20	10	・アルペンスキーと共に開催
H10	1998	-	-	-	-	-	・長野冬季パラリンピックのため実施せず
H11	1999	2月19日～21日	ブランシュたかやまスキー場	30	22	8	・アルペンスキーと共に開催
H12	2000	3月10日～12日	ARAI M&S PARK	39	26	13	・アルペンスキーと共に開催
H13	2001	3月9日～11日	ARAI M&S PARK	31	24	7	・アルペンスキーと共に開催
H14	2002	2月15日～17日	ARAI M&S PARK	43	39	4	・アルペンスキーと共に開催

年	西暦	期日	会場	参加選手数			特記事項
				計	男子	女子	
H15	2003	3月7日～9日	野辺地かまど温泉スキー場	46	39	7	・この年より単独開催。
H16	2004	2月21日～22日	池の平温泉スキー場	59	42	17	
H17	2005	3月11日～13日	池の平温泉スキー場	33	24	9	
H18	2006	2月17日～19日	白馬村スノーハープ	31	24	7	
H19	2007	3月2日～4日	白馬村スノーハープ	34	28	6	
H20	2008	2月22日～24日	白馬村スノーハープ	29	25	4	
H21	2009	2月20日～22日	白馬村スノーハープ 柵池高原スキー場 クロスカントリーコース	26	21	5	・天皇陛下御即位20年記念大会 ・雪不足のため柵池クロスカントリーコースで 競技を実施
H22	2010	1月8日～10日	富沢クロスカントリーコース	40	35	5	
H23	2011	2月4日	富沢クロスカントリーコース	37	30	7	・韓国より選手参加
H24	2012	2月17日～19日	白馬村スノーハープ	31	27	4	
H25	2013	2月8日～10日	白馬村スノーハープ	31	27	4	
H26	2014	1月25日～28日	富沢クロスカントリーコース	44	38	6	
H27	2015	3月6日～8日	白馬村スノーハープ				

#### アイススレッジスピードレース競技 年表

年	西暦	期日	会場	参加選手数			特記事項
				計	男子	女子	
H7	1995	1月21日～22日	長野スケートセンター	25	21	4	・アイススレッジホッケー競技と同時開催
H8	1996	3月16日～17日	長野スケートセンター	12	7	5	・アイススレッジホッケー競技と同時開催
H9	1997	3月20日～23日	ビッグハット	16	11	5	・アイススレッジホッケー競技と同時開催 ・国際アイススレッジ競技会としても実施(参加 国：日本、ノルウェー)
H10	1998	—	—				・長野冬季パラリンピックのため実施せず
H11	1999	2月26日	ホワイトリング	15	9	6	・アイススレッジホッケー競技と同時開催

#### アイススレッジホッケー競技 年表

年	西暦	期日	会場	チーム数	特記事項
H7	1995	1月21日～22日	長野スケートセンター	2	・ノルウェーより講師招聘
H8	1996	3月16日～17日	長野スケートセンター	3	
H9	1997	3月20日～23日	ビッグハット	3	・国際アイススレッジ競技会としても実施(参加 国：日本、スウェーデン、ノルウェー)
H10	1998	—	—	—	・長野冬季パラリンピックのため実施せず
H11	1999	2月26日	ホワイトリング	2	・大会に引き続き、国際アイススレッジホッケー 大会を実施(参加国：カナダ、ノルウェー、ス ウェーデン、日本)
H12	2000	2月12～13日	やまびこスケートの森	3	・ショートトラック種目を実施(28選手が出場)
H13	2001	1月26日～28日	やまびこスケートの森	4	
H13	2001	12月15日～16日	ビッグハット	3	
H15	2003	3月7日～9日	新井田アイスアリーナ	5	・韓国代表チーム参加
H16	2004	2月11日～12日	やまびこスケートの森	3	
H17	2005	2月13日	やまびこスケートの森	4	・韓国代表チーム参加
H17	2005	12月9日～10日	やまびこスケートの森	3	
H19	2007	1月13日～14日	大雪アイスアリーナ	3	・初の北海道開催
H20	2008	1月22日～26日	大雪アイスアリーナ	4	・カナダ、ノルウェー、アメリカ参加
H21	2009	1月13日～16日	ビッグハット	4	・天皇陛下御即位20年記念大会 ・カナダ、ノルウェー、アメリカ参加
H22	2010	1月19日～24日	ビッグハット	4	・アメリカ、ノルウェー、チェコ参加
H23	2011	3月10日～14日	ビッグハット	4	・アメリカ、ノルウェー、カナダ参加 ・東日本大震災により総当たり戦に変更

## (7)日本車椅子バスケットボール選手権大会

車椅子バスケットボールがわが国ではじめて紹介されたのは、昭和36(1961)年の「第1回大分県身体障害者体育大会」である。

その後、パラリンピック東京大会を契機に全国に広まり、やがて全国の身体障がい者施設でクラブチームが誕生した。そして昭和45(1970)年11月、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で「第1回車椅子バスケットボール競技大会」が開催された。その後、「全国車椅子バスケットボール競技大会」、「1974年全国車椅子バスケットボ-

ール競技大会」と毎年開催され、さらに昭和50(1975)年5月に日本車椅子バスケットボール連盟が組織されたのを記念して「1975年日本車椅子バスケットボール連盟結成記念競技大会」が開催された。

そして翌昭和51(1976)年より大会名称を「日本車椅子バスケットボール選手権大会」に改め、第5回大会に位置付けた。

なお、昭和54(1979)年の第8回大会より内閣総理大臣杯を冠し開催されている。

### 車椅子バスケットボール競技大会 年表

回	年	西暦	期日	開催場所	都市名	チーム数	優勝チーム	準優勝チーム	皇室のご観覧	その他特記事項
1	S45	1970	11月29日	東京都立駒沢オリンピック公園総合運動場体育館	東京都世田谷区	7	労災リハビリテーション長野作業所チーム	労災リハビリテーション千葉作業所チーム		第1回車椅子バスケットボール競技大会
2	S46	1971	11月20日～21日	国立オリンピック記念青少年総合センター新体育館	東京都渋谷区	16	長野WBC	労災リハビリテーション千葉作業所チーム		全国車椅子バスケットボール競技大会
3	S49	1974	4月28日～29日	佼成学園体育館	東京都杉並区	20	長野WBC	太陽の家WBC		1974年全国車椅子バスケットボール競技大会
4	S50	1975	5月3日～4日	佼成学園体育館	東京都杉並区	16	長野WBC	足立クラブ		1975年日本車椅子バスケットボール連盟結成記念競技大会
5	S51	1976	5月2日～3日	佼成学園体育館	東京都杉並区	16	足立クラブ	長野WBC		「日本車椅子バスケットボール選手権大会」と改称。過去4回を継続とした。
6	S52	1977	4月30日～5月1日	佼成学園体育館	東京都杉並区	16	足立クラブ	千葉作業所チーム		
7	S53	1978	4月29日～30日	佼成学園体育館	東京都杉並区	16	長野WBC	足立クラブ		内閣総理大臣杯が優勝チームに贈呈される。
8	S54	1979	4月29日～30日	大阪市中央体育館	大阪市港区	18	千葉作業所チーム	足立クラブ		この年より「内閣総理大臣杯争奪」と付く。大阪市身体障害者スポーツセンター会館5周年記念大阪中央体育館開館20周年記念
9	S55	1980	4月27日～29日	佼成学園体育館	東京都杉並区	16	労災リハビリテーション千葉作業所チーム	東京クラブ		この年より(財)日本船舶振興会補助事業となる。
10	S56	1981	5月3日～5日	佼成学園体育館	東京都杉並区	24	東京WBC	千葉	皇太子御夫妻(今上天皇皇后両陛下)礼宮様、紀宮様のご観戦を賜る。	国際障害者年、第10回日本車椅子バスケットボール選手権大会を記念大会として開催。
11	S57	1982	5月2日～3日	佼成学園体育館	東京都杉並区	16	千葉	東京WBC		
12	S58	1983	4月30日～5月1日	東京都立駒沢オリンピック公園総合運動場屋内競技場、体育館	東京都世田谷区	18	東京WBC	千葉		

回	年	西暦	期日	開催場所	都市名	チーム数	優勝チーム	準優勝チーム	皇室のご観覧	その他特記事項
13	S59	1984	4月29日～30日	東京都立駒沢オリンピック公園総合運動場屋内競技場、体育館	東京都世田谷区	18	北九州足立クラブ	東京WBC		
14	S60	1985	5月3日～4日	大分県立総合体育館	大分県大分市	16	千葉WBC	パラ神奈川スポーツクラブ		大分県身体障害者スポーツ協会創立25周年記念中村裕先生追悼大会
15	S61	1986	5月3日～4日	佼成学園体育館	東京都杉並区	16	奈良ディアールWBC	パラ神奈川スポーツクラブ		
16	S62	1987	5月3日～4日	東京都立駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場	東京都世田谷区	16	奈良ディアールWBC	パラ神奈川スポーツクラブ		
17	S63	1988	5月4日～5日	東京都立駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場	東京都世田谷区	16	奈良ディアールWBC	パラ神奈川スポーツクラブ		
18	H1	1989	5月3日～4日	神戸ポートアイランドホール	神戸市中央区	18	東京WBC	パラ神奈川スポーツクラブ		1989年フェスピック神戸大会リハーサル大会
19	H2	1990	5月3日～4日	東京都立夢の島総合体育館	東京都江東区	16	パラ神奈川スポーツクラブ	千葉ホークス		
20	H3	1991	5月3日～4日	東京体育館	東京都渋谷区	16	千葉ホークス	埼玉ライオンズ	天皇皇后両陛下に決勝戦をご観戦賜る。	開催20周年記念大会。第20回記念レセプション開催。永年貢献の8名に功労賞、41の企業等に感謝状を贈呈した。
21	H4	1992	5月3日～4日	東京体育館	東京都渋谷区	16	明和BBC	パラ神奈川スポーツクラブ		
22	H5	1993	5月3日～4日	東京体育館	東京都渋谷区	16	パラ神奈川スポーツクラブ	千葉ホークス		
23	H6	1994	5月3日～4日	東京体育館	東京都渋谷区	16	千葉ホークス	パラ神奈川スポーツクラブ		
24	H7	1995	5月3日～4日	東京体育館	東京都渋谷区	16	千葉ホークス	パラ神奈川スポーツクラブ		
25	H8	1996	5月3日～4日	東京体育館	東京都渋谷区	16	千葉ホークス	三重パワーズ	皇太子殿下同妃殿下のご観戦を賜る。	第25回記念大会
26	H9	1997	5月3日～4日	東京体育館	東京都渋谷区	16	パラ神奈川スポーツクラブ	ワールドBC		
27	H10	1998	5月3日～4日	東京体育館	東京都渋谷区	18	千葉ホークス	明和BBC		
28	H11	1999	5月3日～4日	東京体育館	東京都渋谷区	18	ワールドBC	千葉ホークス	天皇皇后両陛下のご観戦を賜る。	天皇陛下御即位10年記念大会。『ファンの集い』を5/3-4の両日各々4回実施、大会後には交流会を実施。

回	年	西暦	期日	開催場所	都市名	チーム数	優勝チーム	準優勝チーム	皇室のご観覧	その他特記事項
29	H12	2000	5月3日～4日	東京体育館	東京都渋谷区	17	ワールドBC	千葉ホークス		バラ神奈川ISC欠場により東京スポーツ愛好クラブがオープン参加。
30	H13	2001	5月3日～4日	東京体育館	東京都渋谷区	18	ワールドBBC	千葉ホークス	天皇皇后両陛下のご観戦を賜る。	第30回記念大会
31	H14	2002	5月3日～4日	東京体育館	東京都渋谷区	20	ワールドBBC	千葉ホークス		Kitakyushu Gold Cup 2002記念大会
32	H15	2003	5月3日～4日	東京体育館	東京都渋谷区	20	千葉ホークス	明和BBC		
33	H16	2004	5月3日～4日	東京体育館	東京都渋谷区	20	明和BBC	千葉ホークス		
34	H17	2005	5月2日～4日	東京体育館	東京都渋谷区	20	千葉ホークス	ワールドBBC		
35	H18	2006	4月28日～30日	東京体育館	東京都渋谷区	20	千葉ホークス	宮城MAX	皇太子殿下同妃殿下のご観戦を賜る。	
36	H19	2007	5月2日～4日	東京体育館	東京都渋谷区	20	千葉ホークス	NO EXCUSE		
37	H20	2008	5月2日～4日	東京体育館	東京都渋谷区	20	宮城MAX	千葉ホークス		
38	H21	2009	5月4日～6日	東京体育館	東京都渋谷区	20	宮城MAX	千葉ホークス		天皇陛下御即位20年記念大会
39	H22	2010	5月3日～5日	東京体育館	東京都渋谷区	20	宮城MAX	千葉ホークス		
	H23	2011								東日本大震災の影響により中止
40	H24	2012	5月2日～4日	東京体育館	東京都渋谷区	20	宮城MAX	NO EXCUSE	天皇皇后両陛下のご観戦を賜る。	第40回記念大会
41	H25	2013	5月3日～5日	東京体育館	東京都渋谷区	16	宮城MAX	NO EXCUSE		
42	H26	2014	5月17日～18日	東京体育館	東京都渋谷区	16	宮城MAX	千葉ホークス		

### (8)全日本女子車椅子バスケットボール選手権大会

女子の車椅子バスケットボールチームが誕生したのは昭和58(1983)年のことで、わずかに2チームであった。

その後、平成元(1989)年に行われたフェスティック神戸大会を記念して翌年より全日本女子車椅子バスケット

ボール選手権大会が開催されるようになった。

原則として大会は毎年神戸市で行われたが、阪神淡路大震災により1995年から1997年までの間は他県で開催された。

女子車椅子バスケットボール競技大会 年表

回	年	西暦	期日	開催場所	都市名	チーム数	優勝チーム	準優勝チーム	その他特記事項
1	H2	1990	11月17日～18日	神戸ポートアイランドホール	神戸市中央区	9	東京グレース	WING	全国男子ブロック選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
2	H3	1991	11月16日～17日	神戸ポートアイランドホール	神戸市中央区	8	東京グレース	WING	全国男子ブロック選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
3	H4	1992	11月14日～15日	神戸ポートアイランドホール	神戸市中央区	8	東京グレース	WING	全国男子ブロック選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
4	H5	1993	11月27日～28日	神戸ポートアイランドホール	神戸市中央区	9	東京グレース	カクテル	全国男子ブロック選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
5	H6	1994	10月22日～23日	神戸ポートアイランドホール	神戸市中央区	9	東京グレース	九州ドルフィン	全国男子ブロック選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
6	H7	1995	8月5日～6日	横浜ラポール	横浜市港北区	9	東京グレース	九州ドルフィン	阪神淡路大震災のため急遽開催地変更
7	H8	1996	11月30日～12月1日	名古屋市稲永スポーツセンター	愛知県名古屋市	10	キャッツ	ELFIN	
8	H9	1997	11月17日～18日	アクション福岡	福岡市博多区	8	九州ドルフィン	ELFIN	第1回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
9	H10	1998	11月28日～29日	グリーンアリーナ神戸	神戸市須磨区	9	ELFIN	九州ドルフィン	第2回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
10	H11	1999	11月20日～21日	グリーンアリーナ神戸	神戸市須磨区	9	ELFIN	九州ドルフィン	第3回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
11	H12	2000	11月18日～19日	グリーンアリーナ神戸	神戸市須磨区	9	ELFIN	WING	第4回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
12	H13	2001	11月17日～18日	グリーンアリーナ神戸	神戸市須磨区	9	ELFIN	WING	第5回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
13	H14	2002	10月12日～13日	グリーンアリーナ神戸	神戸市須磨区	9	ELFIN	九州ドルフィン	第6回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
14	H15	2003	10月12日～13日	グリーンアリーナ神戸	神戸市須磨区	8	WING	九州ドルフィン	第7回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
15	H16	2004	10月10日～11日	グリーンアリーナ神戸	神戸市須磨区	9	ELFIN	カクテル	第8回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
16	H17	2005	10月9日～10日	グリーンアリーナ神戸	神戸市須磨区	8	九州ドルフィン	WING	第9回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
17	H18	2006	11月25日～26日	グリーンアリーナ神戸	神戸市須磨区	8	カクテル	WING	第10回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
18	H19	2007	11月3日～4日	グリーンアリーナ神戸	神戸市須磨区	8	カクテル	WING	第11回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
19	H20	2008	11月8日～9日	グリーンアリーナ神戸	神戸市須磨区	8	Brilliant Cats	カクテル	第12回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
20	H21	2009	11月7日～8日	グリーンアリーナ神戸	神戸市須磨区	8	カクテル	Brilliant Cats	第13回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催

回	年	西暦	期日	開催場所	都市名	チーム数	優勝チーム	準優勝チーム	その他特記事項
21	H22	2010	10月30日 ～31日	グリーンアリーナ 神戸	神戸市 須磨区	8	WING	カクテル	第14回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
22	H23	2011	11月26日 ～27日	グリーンアリーナ 神戸	神戸市 須磨区	6	SCRATCH	カクテル	第15回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
23	H24	2012	11月10日 ～11日	グリーンアリーナ 神戸	神戸市 須磨区	7	カクテル	SCRATCH	第16回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
24	H25	2013	11月2日～ 3日	グリーンアリーナ 神戸	神戸市 須磨区	7	ELFIN	カクテル	第17回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催
25	H26	2014	11月15日 ～16日	グリーンアリーナ 神戸	神戸市 須磨区	7	カクテル	ELFIN	第18回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催

### (9) 日本車椅子ツインバスケットボール選手権大会

車椅子ツインバスケットボールは、昭和40年代半ばから昭和50年代前半にかけて、頸髄損傷で車椅子を使用している四肢麻痺者のためにわが国のリハビリテーションセンターで生まれたスポーツである。その後、昭和57(1982)年に国立療養箱根病院と神奈川県総合リハビリテーションセンター間で親善試合が行われ、さらにその翌年には第12回日本車椅子バスケットボール選手権大会

にてデモンストレーションゲームが行われた。

しかしこの当時、施設ごとにルールが異なるなど統一されていなかったため、昭和61(1986)年2月にチーム代表者会議が開かれ統一ルールが制定された。

そして昭和62(1987)年12月、名古屋市において第1回日本車椅子ツインバスケットボール選手権大会が開催された(第10回大会より厚生大臣杯を冠する大会になった)。

### ツインバスケットボール競技大会 年表

回	年	西暦	期日	開催場所	都市名	チーム数	優勝チーム	準優勝チーム	皇室のご観覧	その他特記事項
1	S62	1987	12月6日	三好公園総合体育館	名古屋市	10	ウォリアーズBBC	名古屋フェニックスBBC		
2	S63	1988	11月13日	東京都多摩障害者スポーツセンター	東京都	12	名古屋フェニックス	東京ウォリアーズ		
3	H1	1989	5月4日	東京体育館	東京都	11	大阪グッパーズ	東京ワンダラーズ		第18回日本車椅子バスケットボール選手権大会の中で「ツインバスケットボールの部」として実施
4	H2	1990	6月17日	名古屋市稲永スポーツセンター	名古屋市	10	名古屋フェニックス	三河ジャガーズ		
5	H3	1991	6月30日	神奈川県立中央地区体育センター／ 神奈川県総合リハビリテーションセンター体育館	神奈川県	12	名古屋フェニックス	三河ジャガーズ		
6	H4	1992	6月28日	姫路市体育館	兵庫県	8	ワンダラーズBBC	神奈川ジャンクス		
7	H5	1993	6月20日	名古屋市稲永スポーツセンター	名古屋市	8	ネッカーズBBC	ワンダラーズBBC		オープン試合としてジュニア戦(4チーム)を実施
8	H6	1994	6月12日	横浜ラポール	横浜市	8	ワンダラーズBBC	大阪グッパーズ		
9	H7	1995	5月28日	大阪市中央体育館	大阪府	8	東京ウォリアーズ	三河ジャガーズ		
10	H8	1996	5月25日～ 26日	豊橋市総合体育館	愛知県	10	名古屋フェニックス	ネッカーズBBC		この大会より厚生大臣杯を冠した大会になった
11	H9	1997	5月24日～ 25日	横浜ラポール	横浜市	12	横浜レッドブリックス	東京ウォリアーズ		
12	H10	1998	5月23日～ 24日	佐世保市体育文化館	長崎県	12	ワンダラーズBBC	沖縄フェニックス		
13	H11	1999	5月22日～ 23日	新潟市東総合スポーツセンター	新潟県	12	ワンダラーズWSC	ロス・キオーテス		
14	H12	2000	5月27日～ 28日	岡山市総合文化体育館	岡山県	12	ロス・キオーテス	名古屋フェニックス		
15	H13	2001	5月19日～ 20日	豊橋市総合体育館	愛知県	12	ロス・キオーテス	神奈川ジャンクス		

回	年	西暦	期日	開催場所	都市名	チーム数	優勝チーム	準優勝チーム	皇室のご観覧	その他特記事項
16	H14	2002	5月11日～12日	千葉ポートアリーナ	千葉県	12	沖縄フェニックス	千葉ピーナッツ		
17	H15	2003	7月19日～20日	べっぴんアリーナ	大分県	12	沖縄フェニックス	Horsetail	高円宮妃殿下のご観戦を賜る	
18	H16	2004	5月2日～23日	グランディ・21	宮城県	12	太陽の家ブレイカーズ	沖縄フェニックス	高円宮妃殿下のご観戦を賜る	
19	H17	2005	5月14日～15日	くろしおアリーナ	高知県	13	KINGS	横浜レッドブリックス	高円宮妃殿下のご観戦を賜る	
20	H18	2006	5月27日～28日	Vアリーナ	さいたま市	14	横浜レッドブリックス	Horsetail	高円宮妃殿下のご観戦を賜る	
21	H19	2007	6月2日～3日	スカイホール豊田	愛知県	14	神奈川ジャンクス	Horsetail	高円宮妃殿下のご観戦を賜る	
22	H20	2008	6月7日～8日	沖縄県立武道館	沖縄県	14	沖縄フェニックス	キャロッツ	高円宮妃殿下のご観戦を賜る	
23	H21	2009	6月6日～7日	新潟市東総合スポーツセンター	新潟市	14	沖縄フェニックス	キャロッツ	高円宮妃殿下のご観戦を賜る	
24	H22	2010	6月12日～13日	パークアリーナ小牧	愛知県	12	神奈川ジャンクス	沖縄フェニックス		
	H23	2011								東日本大震災により中止
25	H24	2012	6月2日～3日	パークアリーナ小牧	愛知県	14	神奈川ジャンクス	Horsetail		
26	H25	2013	6月8日～9日	パークアリーナ小牧	愛知県	14	Horsetail	神奈川ジャンクス		
27	H26	2014	6月7日～8日	パークアリーナ小牧	愛知県	14	Horsetail	神奈川ジャンクス	高円宮妃殿下のご観戦を賜る	



### (10)全国身体障害者アーチェリー選手権大会

わが国におけるアーチェリー競技は、昭和39(1964)年に開催されたパラリンピック東京大会の開催にあたり、厚生省関係施設において選手養成が行われたことから始まった。その後、昭和40(1965)の第1回全国身体障害者スポーツ大会から正式競技となり徐々に全国へと普及していった。

第1回大会は、昭和48(1973)年5月に「第1回フェニックス杯」として神奈川県で開催され、また同年10月に第2回

大会が開催された。

第4回大会からは「フェニックス杯争奪全国身体障害者アーチェリー大会」と改称し、さらに第7回大会から現在の「全国身体障害者アーチェリー選手権大会」として開催されている(第11回大会より厚生大臣杯争奪大会)。

全国組織は、第1回大会の実行委員が中心になり設立準備がはじめられ、昭和51(1976)年に日本身体障害者アーチェリー連盟が設立された。

#### アーチェリー競技大会 年表

回	年	西暦	期 日	開催地	選手数	備 考
1	S48	1973	5月15日	横浜市	10	この年は春秋と2回。
2		1973	10月10日	横浜市	30	
3	S49	1974	11月17日	横浜市	25	
4	S50	1975	10月12日	神奈川県	67	
5	S51	1976	10月10日	神奈川県	86	
6	S52	1977	10月9日	神奈川県	61	
7	S53	1978	9月24日	神奈川県	200	この大会は、日本自転車振興会の補助金が認められた。
8	S54	1979	9月23日	神奈川県	200	
9	S55	1980	9月14日	神奈川県	200	この大会より、日本自転車振興会の補助金が認められた。
10	S56	1981	9月13日	神奈川県	200	国際障害者年を記念して西ドイツより選手2名を招待した。
11	S57	1982	9月19日	神奈川県	200	この大会から優勝者に厚生大臣杯が賜られる。
12	S58	1983	9月18日	神奈川県	300	
13	S59	1984	9月23日	神奈川県	300	
14	S60	1985	9月15日	神奈川県	211	
15	S61	1986	9月14日	神奈川県	213	
16	S62	1987	9月19～20日	大阪市	210	普及発展をはかるため大阪市で開催した。
17	S63	1988	9月11日	神奈川県	234	
18	H1	1989	10月7～8日	神奈川県	218	
19	H2	1990	9月1～2日	熊本県	144	身体障害者アーチェリーゆかりの地で開催した。
20	H3	1991	9月14～15日	神奈川県	110	20回記念大会として韓国より選手1名を招待した。
21	H4	1992	9月26～27日	神奈川県	205	
22	H5	1993	9月18～19日	岩手県	200	
23	H6	1994	9月24～25日	埼玉県	200	韓国及びオーストラリアより選手各1名を招待した。
24	H7	1995	9月9～10日	札幌市	209	韓国より選手3名を招待した。

回	年	西暦	期 日	開催地	選手数	備 考
25	H8	1996	9月14～15日	神奈川県	200	連盟創立20周年記念大会。
26	H9	1997	9月13～14日	神奈川県	200	
27	H10	1998	9月12～13日	岡山県	200	フェニックス吉備の国倉敷大会同時開催。
28	H11	1999	9月11～12日	神奈川県	180	第1回フェスピックアーチェリー選手権大会合同開催。
29	H12	2000	9月9～10日	群馬県	200	群馬ふれあいアーチェリー大会と合同開催
30	H13	2001	10月20～21日	大阪市	185	フェニックス大阪大会
31	H14	2002	10月5～6日	熊本県	71	火の国杯
32	H15	2003	9月13～14日	奈良県	62	フェニックス奈良大会
33	H16	2004	7月24～25日	高知県	42	フェニックス高知大会(韓国より選手3名を招待した)
34	H17	2005	9月17～18日	長野県	77	フェニックス長野大会
35	H18	2006	8月19～20日	北海道	55	フェニックス札幌大会
36	H19	2007	9月1～2日	千葉県	72	フェニックス千葉大会
37	H20	2008	7月12～13日	大分県	84	フェニックス大分大会
38	H21	2009	9月12～13日	山口県	50	フェニックス山口大会
39	H22	2010	9月19～20日	和歌山県	29	フェニックスわかやま大会
40	H23	2011	8月27～28日	和歌山県	55	フェニックス神奈川大会
41	H24	2012	8月5日	埼玉県	37	フェニックス埼玉大会
42	H25	2013	9月22日	奈良県	43	フェニックス奈良大会
43	H26	2014	9月21日	福岡県	56	フェニックス北九州大会

**(11)全国車いす駅伝競走大会**

1988年に開催された第24回全国身体障害者スポーツ大会の公開競技として実施。

その後、1990年に名称を「全国車いす駅伝競走大会」として毎年開催されるようになった。

**車いす駅伝競走大会 年表**

回	年	西暦	期日	開催地	参加数	団体戦(男子のみ)	
						1位	2位
1	H2	1990	2月25日	京都	23	大阪A	山口
2	H3	1991	2月24日	京都	32	山口	神戸市
3	H4	1992	2月23日	京都	34	大阪A	山口
4	H5	1993	2月21日	京都	40	山口	神戸市
5	H6	1994	2月27日	京都	38	神戸市	山口
6	H7	1995	3月12日	京都	33	京都A	和歌山
7	H8	1996	2月25日	京都	37	山口	神戸市
8	H9	1997	2月23日	京都	36	神戸市	山口
9	H10	1998	2月22日	京都	36	神戸市	山口
10	H11	1999	2月28日	京都	33	神戸市	京都A
11	H12	2000	2月27日	京都	33	大分	山口
12	H13	2001	2月25日	京都	31	大分	山口
13	H14	2002	2月24日	京都	28	大分	京都A
14	H15	2003	2月23日	京都	30	大分	京都A
15	H16	2004	2月29日	京都	33	大分	北九州
16	H17	2005	2月27日	京都	27	大分	福岡
17	H18	2006	2月26日	京都	28	大分	福岡
18	H19	2007	2月25日	京都	32	大分A	福岡
19	H20	2008	2月24日	京都	27	福岡	大分A
20	H21	2009	2月22日	京都	30	京都A	大分A
21	H22	2010	2月21日	京都	28	京都A	大分A
22	H23	2011	2月20日	京都	29	大阪A	大分A
23	H24	2012	2月19日	京都	25	福岡	京都A
24	H25	2013	2月17日	京都	28	福岡	大分A
25	H26	2014	3月9日	京都	26	福岡	大分A
26	H27	2015	3月8日	京都			

## (12)全国身体障害者スキー大会

わが国における身体障がい者のスキーは、昭和46(1971)年にカナダからアウトリガーを持ち帰った笹川雄一郎氏(長野県竜王スキースクール校長)が、アウトリガーによるハンディスキーの普及を呼びかけたことで広まった。

翌昭和47(1972)年2月、笹川氏の呼びかけで8名の選手が笹川ロッジに集結。これを「第1回全国身体障害者スキー大会」に位置付けるとともに、「日本身体障害者スキー協会」の前身であるアンプティー・スキークラブを結成した。

### スキー大会 年表

回	年	西暦	期日	会場	参加数	特記事項
1	S47	1972	2月10日～14日	竜王スキー場	8名(選手)	
2	S48	1973		竜王スキー場	35名	
3	S49	1974		竜王スキー場	79名(選手50名)	
4	S50	1975	2月8日～10日	竜王スキー場	129名(選手56名)	
5	S51	1976	3月5日～7日	竜王スキー場	216名(選手86名)	
6	S52	1977	3月4日～6日	竜王スキー場	120名	
7	S53	1978		竜王スキー場	150名	
8	S54	1979	2月23日～25日	竜王スキー場	200名	
9	S55	1980		竜王スキー場	200名	
10	S56	1981	3月6日～8日	竜王スキー場	200名(選手160名)	
11	S57	1982	2月19日～21日	竜王スキー場	193名(選手93名)	
12	S58	1983	3月4日～6日	竜王スキー場	212名(選手96名)	
13	S59	1984	2月17日～19日	長野県国設飯綱高原スキー場	182名(選手127名)	
14	S60	1985	2月1日～3日	宮城県鳴子町鬼首スキー場	176名(選手139名)	
15	S61	1986	2月14日～16日	新潟県長岡市営スキー場	201名(選手159名)	
16	S62	1987	1月30日～2月1日	山形県山形市蔵王スキー場	293名(選手227名)	
17	S63	1988	3月4日～6日	群馬県片品村丸沼スキー場	244名(選手179名)	
18	H1	1989	2月24日～26日	岩手県雫石町網張スキー場	選手205名	
19	H2	1990	2月23日～25日	山形県米沢市栗子国際スキー場	選手198名	
20	H3	1991	2月22日～24日	秋田県田沢湖町田沢湖ミナミススキー場	400人(選手256名)	20回記念。アメリカ・カナダより選手招待
21	H4	1992	2月20日～22日	長野県山ノ内町よませスキー場	183名	

回	年	西暦	期日	会場	参加数	特記事項
22	H5	1993	3月4日～6日	新潟県湯沢町浅貝スキー場	163名	
23	H6	1994	3月3日～5日	宮城県仙台市 泉高原スプリングバレースキー場	451名(選手171名)	
24	H7	1995	2月17日～19日	秋田県田沢湖町田沢湖ミナミスキー場	340名(選手152名)	
25	H8	1996	1月26日～28日	山形県米沢市小野川スキー場	172名	
26	H9	1997	2月14日～16日	富山県大山町あわすのスキー場	281名(選手197名)	ニュージーランドより選手参加
27	H10	1998	1月23日～25日	青森県青森市モヤヒルズスキー場	245名(選手168名)	青森市制100周年記念事業
28	H11	1999	2月12日～14日	群馬県水上町水上高原スキー場	252名(選手143名)	
29	H12	2000	3月3日～5日	岩手県安代町安比高原スキー場	137名	
30	H13	2001	2月22日～25日	鳥取県大山町大山スキー場	129名(選手90名)	
31	H14	2002	2月21日～24日	山形県米沢市栗子国際スキー場	83名(選手69名)	
32	H15	2003	2月20日～22日	新潟県妙高高原町赤倉温泉スキー場	122名(選手90名)	国体開催地での次年度開催
33	H16	2004	3月11日～13日	北海道名寄市なよろピヤシリスキー場	248名(選手94名)	
34	H17	2005	2月3日～5日	山形県最上市赤倉温泉スキー場	158名(選手65名)	
35	H18	2006	2月3日～5日	岩手県安代町安比スキー場	139名(選手72名)	
36	H19	2007	2月22日～25日	群馬県利根郡片品村 ホワイトワールド尾瀬岩鞍スキー場	112名(選手67名)	
37	H20	2008	3月6日～8日	秋田県仙北市 たざわ湖スキー場	95名(選手58名)	
38	H21	2009	2月12日～14日	長野県野沢温泉村 野沢温泉スキー場	102名(選手57名)	
39	H22	2010	2月18日～20日	新潟県湯沢町 苗場スキー場	選手61名	
40	H23	2011	2月24日～26日	秋田県仙北市 たざわ湖スキー場	82名(選手40名)	
41	H24	2012	2月23日～25日	岐阜県高山市 飛騨ほおのき平スキー場	77名(選手40名)	
42	H25	2013	2月21日～23日	秋田県仙北市 たざわ湖スキー場	115名(選手46名)	
43	H26	2014	2月27日～3月1日	山形県最上町 赤倉温泉スキー場	97名(選手56名)	
44	H27	2015	3月5日～7日	群馬県利根郡みなかみ町 水上宝台樹スキー場		

### (13)日本パラサイクリング選手権

平成2(1990)年10月、障がい者スポーツ関係者、社会福祉の専門家、大学自転車部員等により「タンデムサイクリングを楽しむ会実行委員会」が組織され、同年11月、「タンデムサイクリングを楽しむ会」が開催された。また同日、「日本障害者自転車協会」が発足。以後、毎年楽しむ会が行われるようになった。

その後、楽しみだけにとどまらず、次回パラリンピックを見据えた選手の養成・強化のため、日本障害者自転車競技大会(第11回大会までは、「日本身体障害者自転車競技大会」と呼ばれていた)が開催されるようになった。

平成24(2012)年、主催競技団体の法人化(一般社団法人日本パラサイクリング連盟)とともに、大会名を「日本パラサイクリング選手権」に変更した。

日本障害者自転車競技大会 年表

回	年	西暦	期日	会場	種別	参加数	備考
1	H5	1993	12月4日～5日	東京都立川市 国営昭和記念公園	ロード	20	
	H6	1994	3月20日	大阪府河内長野市 関西サイクルスポーツセンター	バンク	45	
2	H6	1994	12月10日～11日	東京都立川市 国営昭和記念公園	ロード	98	
	H7	1995	3月19日	大阪府河内長野市 関西サイクルスポーツセンター	バンク	44	
3	H7	1995	9月23日～24日	東京都立川市 国営昭和記念公園	ロード	70	
	H8	1996	3月24日	大阪府河内長野市 関西サイクルスポーツセンター	バンク	30	
4	H8	1996	11月24日	東京都立川市 国営昭和記念公園	ロード	90	
	H9	1997	3月16日	大阪府河内長野市 関西サイクルスポーツセンター	バンク	40	
5	H10	1998	3月28日	大阪府大阪市 舞洲スポーツアイランド	ロード	88	
			3月29日	大阪府河内長野市 関西サイクルスポーツセンター	バンク	64	
6	H10	1998	12月5日	神奈川県平塚市 平塚競輪場	バンク	26	
	H11	1999	3月28日	東京都立川市 国営昭和記念公園	ロード	88	
7	H11	1999	9月11日	愛知県長久手町 愛知青少年公園	ロード	43	天皇陛下御即位10年記念を冠す
			9月12日	愛知県名古屋市 名古屋競輪場	バンク	52	天皇陛下御即位10年記念を冠す
8	H12	2000	3月18日	神奈川県平塚市 平塚競輪場	バンク	73	日米親善自転車レース
			3月19日	神奈川県綾瀬市 在日米国海軍厚木航空基地	ロード	72	日米親善自転車レース
9	H12	2000	11月11日	静岡県 修善寺サイクルスポーツセンター	バンク	51	本大会から標記大会名に変更
			11月12日		ロード	42	
10	H13	2001	11月11日	神奈川県横浜市 花月園競輪場	バンク	45	
			12月2日	愛知県長久手町 愛知青少年公園	ロード	42	
11	H14	2002	6月2日	愛知県犬山市	ロード	24	
			6月9日	愛知県名古屋市 名古屋競輪場	バンク	22	

回	年	西暦	期日	会場	種別	参加数	備考
12	H15	2003	5月31日	愛知県一宮市 一宮競輪場	バンク	26	悪天候により順延となった種目を実施
			6月1日	愛知県犬山市	ロード	27	
			7月20日	静岡県修善寺町 修善寺サイクルスポーツセンター	バンク	26	
			8月24日	神奈川県座間市	トライスクール・ロード		
13	H16	2004	6月5日	愛知県一宮市 一宮競輪場	バンク	70	
			6月6日	愛知県犬山市	ロード	35	
14	H17	2005	6月4日	愛知県一宮市 一宮競輪場	バンク	15	
			6月5日	愛知県犬山市	ロード	36	
15	H18	2006	5月13日	東京都調布市 京王閣競輪場	バンク	19	
			7月9日	秋田県大潟村 大潟村ソーラースポーツライン	ロード	25	
16	H19	2007	4月14日	愛知県一宮市 一宮競輪場	バンク	25	
			4月15日	愛知県豊橋市 万場調整池	ロード	34	
17	H20	2008	10月19日	京都府向日市 向日町競輪場	バンク	11	
			11月2日	愛知県豊橋市 万場調整池	ロード	9	
18	H21	2009	5月16日	静岡県伊豆市 日本サイクルスポーツセンター	バンク	8	
			6月7日	福島県西郷村	ロード	19	
19	H22	2010	5月8日	静岡県伊豆市 日本サイクルスポーツセンター	バンク	11	
			4月10日	愛知県豊橋市 万場調整池	ロード	17	
20	H23	2011	7月23日～ 24日	京都府向日市 向日町競輪場	バンク	12	
			6月4日	愛知県豊橋市 万場調整池	ロード	16	
21	H24	2012	11月17日	静岡県伊豆市 伊豆ペロドローム	トラック	7	
			10月28日	愛知県豊橋市 万場調整池	ロード	12	
22	H25	2013	6月9日	秋田県大潟村ソーラースポーツライン	ロード	18	
			7月27日～ 28日	静岡県伊豆市 伊豆ペロドローム	トラック	12	
23	H26	2014	4月19日～ 20日	福島県西白河郡 泉崎国際サイクルスタジアム	トラック	7	
			6月27日～ 29日	岩手県八幡平市 岩手山パノラマインコース	ロード	13	

#### (14)大分国際車いすマラソン大会

別府太陽の家の中村裕理事長の提唱により、大分県の「国際障害者年」の記念事業として、昭和56(1981)年より世界初の車いす単独のマラソンが行われることになった。

大会の準備段階では、フルマラソンを完走できるかどうかが疑問視されていたため第2回大会までハーフマラソンのみが行われていた。

その後、第3回大会から国際ストーク・マンデビル車いすスポーツ連盟(ISMWSF)公認大会として開催されるようになり、ハーフマラソンに加えフルマラソンも実施されるようになった。

第27回大会から国際パラリンピック委員会(IPC)公認大会として開催されている

大分国際車いすマラソン大会 年表

回	年	西暦	期日	選手数		備考
				フル	ハーフ	
1	S56	1981	11月1日	-	117	ハーフマラソンのみ
2	S57	1982	10月24日	-	118	ハーフマラソンのみ
3	S58	1983	11月13日	57	61	フルマラソン及びハーフマラソンISMWSF公認大会となる
4	S59	1984	11月11日	76	90	
5	S60	1985	11月10日	66	119	皇太子殿下・同妃殿下ご臨席
6	S61	1986	11月2日	80	134	
7	S62	1987	11月1日	69	88	本大会より技術セミナーを行った。
8	S63	1988	11月6日	120	189	浩宮殿下ご臨席
9	H1	1989	11月5日	130	174	常陸宮殿下、同妃殿下ご臨席
10	H2	1990	10月28日	195	214	秋篠宮殿下、同妃殿下ご臨席記念大会。視覚障害タンデム(二人乗自転車)サイクリング実施。
11	H3	1991	11月4日	184	283	高円宮殿下、同妃殿下ご臨席
12	H4	1992	11月1日	168	262	
13	H5	1993	10月31日	171	229	
14	H6	1994	10月30日	190	277	
15	H7	1995	10月29日	198	235	清子内親王殿下ご臨席



回	年	西暦	期日	選手数		備考
				フル	ハーフ	
16	H8	1996	11月9日	194	409	
17	H9	1997	11月2日	183	216	
18	H10	1998	11月1日	205	229	寛仁親王殿下、同妃殿下ご臨席
19	H11	1999	10月31日	168	214	
20	H12	2000	11月12日	175	242	寛仁親王殿下ご臨席
21	H13	2001	11月11日	197	265	
22	H14	2002	10月20日	171	248	
23	H15	2003	11月16日	151	197	
24	H16	2004	10月31日	145	174	
25	H17	2005	10月30日	164	199	
26	H18	2006	10月29日	109	171	
27	H19	2007	10月28日	98	148	IPC公認大会となる
28	H20	2008	11月9日	102	146	
29	H21	2009	11月25日	109	193	
30	H22	2010	11月14日	139	211	第30回記念大会
31	H23	2011	10月30日	89	131	
32	H24	2012	10月28日	91	143	
33	H25	2013	10月26日	91	156	
34	H26	2014	11月9日	81	152	

### (15)全国ろうあ者体育大会

戦後、ろうあ者のスポーツは、全日本ろうあ連盟体育部を中心に、野球、陸上競技、卓球等の大会が個々に開催されていた。

このような状況下、昭和39(1964)年に東京オリンピックが開催されたが、同大会にハンガリーやドイツからろうあ者が出場したことが話題となった。また、オリンピック出場選手とは別に国際ろう者スポーツ委員会(旧 国際聴覚障がい者スポーツ連盟)副会長のロビー・バーンズ氏が来日したことが契機となり、世界ろう者競技大会への

参加に関する機運が高まった。

このような経緯を経て、これまで個々に開催されてきた野球、陸上競技、卓球の各大会をまとめ、ろうあ者の総合体育大会を開催することが強く望まれるようになった。

そして昭和42(1967)年、第1回全国ろうあ者体育大会が開催され、以後、毎年開催されるようになった。

また冬季大会については、翌昭和43(1968)年2月より開催されるようになった。

全国ろうあ者体育大会 年表

回	年	西暦	期日	開催地	参加数	競 技 種 目												
						野 球	卓 球	陸 上	バ レ ー ボ ー ル	サ ッ カ ー	テ ニ ス	ゲ ー ト ボ ー ル	ボ ウ リ ン グ	バ ド ミ ン ト ン	ソ フ ト ボ ー ル	バ ス ケ ッ ト ボ ー ル	柔 道	軟 式 庭 球
1	S42	1967	10月23日～24日	東京都	500	○	○	○										
2	S43	1968	9月7日～8日	神奈川県	562	○	○	○	○									
3	S44	1969	9月21日～22日	石川県	400	○	○											
4	S45	1970	10月3日～	岐阜県	720	○	○	○	○									
5	S46	1971	10月3日～4日	徳島県	410	○	○		○									
6	S47	1972	9月30日～10月2日	兵庫県	609	○	○	○	○									
7	S48	1973	10月6日～7日	大分県	638	○	○	○	○									
8	S49	1974	9月21日～24日	神奈川県	702	○	○	○	○									
9	S50	1975	9月19日～21日	秋田県	604	○	○	○	○									
10	S51	1976	9月11日～12日	京都府	800	○	○	○	○									
11	S52	1977	9月14日～18日	広島県	800	○	○	○	○									
12	S53	1978	9月20日～24日	高知県	1,100	○	○	○	○									
13	S54	1979	9月12日～16日	北海道	700	○	○	○	○	○							○	○
14	S55	1980	9月11日～15日	愛知県	1,000	○	○	○	○	○							○	○
15	S56	1981	9月16日～20日	宮崎県	900	○	○	○	○	○							○	○
16	S57	1982	※1	分散	760	○ 福岡	○ 東京	○ 大阪	○ 福岡	○ 東京	○ 大阪						○	
17	S58	1983	9月14日～18日	青森県	1,100	○	○		○	○	○						○	
18	S59	1984	9月12日～16日	静岡県	1,000	○	○		○	○	○							○
19	S60	1985	9月12日～16日	滋賀県	1,117	○	○		○	○	○						○	○
20	S61	1986	9月13日～15日	分散	1,160	○ 高知	○ 高知	○ 愛媛	○ 香川	中止	○ 大阪							
21	S62	1987	9月11日～13日	山口県	1,265	○	○	○	○	◆	○	○						
22	S63	1988	9月16日～18日	山梨県	1,600	○	○	○	○	○	○	○					○	
23	H1	1989	9月15日～17日	三重県	—	○	○	○	○	○	○	○					○	

回	年	西暦	期日	開催地	参加数	競 技 種 目												
						野球	卓球	陸上	バレーボール	サッカー	テニス	ゲートボール	ボウリング	バドミントン	ソフトボール	バスケットボール	柔道	軟式庭球
24	H2	1990	9月14日～16日	熊本県	1,305	○	○	○	○	○	○	○	○				○	
25	H3	1991	9月12日～16日	北海道	1,500	○	○	○	○	○	○	○	○	◆			○	
26	H4	1992	9月9日～13日	新潟県	3,263	○	○	○	○	○	○	○	○	◆	◆		○	
27	H5	1993	9月7日～12日	奈良県	2,383	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
28	H6	1994	9月13日～18日	山形県	1,836	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
29	H7	1995	9月5日～10日	茨城県	1,883	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
30	H8	1996	9月10日～15日	大分県	1,658	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
31	H9	1997	9月9日～14日	香川県	1,700	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
32	H10	1998	9月1日～6日	広島県	1,600	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
33	H11	1999	9月14日～19日	福岡県	1,836	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◆	
34	H12	2000	※2	分散	3,396	○ 新潟	○ 高知	中止	○ 大阪	○ 京都	○ 長野	○ 神奈川	○ 岡山	○ 秋田	○ 埼玉	○ 三重		
35	H13	2001	9月13日～16日	和歌山県	1,910	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
36	H14	2002	9月13日～16日	宮城県	1,876	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
37	H15	2003	9月12日～15日	長野県	1,882	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
38	H16	2004	9月16日～19日	岐阜県	1,879	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
39	H17	2005	9月22日～25日	長崎県	1,506	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
40	H18	2006	9月14日～17日	栃木県	1,806	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
41	H19	2007	9月13日～16日	岡山県	1,640	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
42	H20	2008	9月12日～14日	大阪府	1,695	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
43	H21	2009	9月19日～22日	福島県	1,363	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
44	H22	2010	9月16日～19日	徳島県	1,400	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
45	H23	2011	9月15日～18日	愛知県	1,620	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
46	H24	2012	9月13日～16日	千葉県	1,502	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
47	H25	2013	9月12日～15日	富山県	1,394	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
48	H26	2014	9月25日～28日	沖縄県	1,136	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

※1 9月4日(サッカー)11月25日～26日(卓球)9月18日～19日(陸上・テニス・柔道)10月20日～21日(野球・バレー)

※2 9月1日～3日(バレーボール)、9月8日～10日(ソフトボール)、9月15日～17日(卓球、サッカー、ボウリング、バスケットボール)、9月22日～24日(野球、テニス、バドミントン)

※3 ◆=オープン

全国ろうあ者冬季体育大会 年表

回	年	西暦	期日	会場	参加数	種 目		
						アルペン スキー	技術 スキー	スノー ボード
1	S43	1968	2月4日～6日	群馬県／武尊オリンピックスキー場	160	○		
2	S44	1969	2月3日～5日	新潟県／赤倉スキー場		○		
3	S45	1970	2月4日～6日	宮城県／鳴子花瀨山スキー場	55	○		
4	S47	1972	2月27日～29日	新潟県／上越国際スキー場		○		
5	S49	1974	3月3日～5日	長野県／志賀高原一の瀬スキー場	230	○		
6	S50	1975	2月21日～23日	北海道／小樽天狗山国設スキー場		○		
7	S51	1976	2月6日～8日	鳥取県／大山国際スキー場	120	○		
8	S52	1977	2月21日～23日	新潟県／上越国際スキー場	120	○		
9	S53	1978	2月12日～15日	岐阜県／流葉スキー場	100	○		
10	S54	1979	2月5日～8日	群馬県／草津スキー場	86	○		
11	S55	1980	3月6日～9日	富山県／粟巣野スキー場	—	○		
12	S56	1981	2月25日～28日	山形県／蔵王スキー場	—	○		
13	S57	1982	2月24日～27日	岐阜県／朴の木平スキー場	95	○		
14	S58	1983	3月6日～9日	秋田県／田沢湖スキー場	—	○		
15	S59	1984	2月9日～12日	北海道／小樽天狗山国設スキー場	132	○		
16	S60	1985	2月21日～24日	新潟県／小田急石打スキー場	167	○		
17	S61	1986	2月12日～15日	岐阜県／朴の木平スキー場	130	○		
18	S62	1987	2月25日～28日	石川県／白峰スキー場	中止	○		
19	S63	1988	3月2日～5日	岐阜県／流葉スキー場	70	○		
20	H1	1989	2月15日～18日	兵庫県／奥神鍋スキー場(中止)				
21	H2	1990	2月27日～3月2日	岩手県／安比高原スキー場	95	○		
22	H3	1991	3月3日～6日	長野県／斑尾高原スキー場	182	○		
23	H4	1992	2月17日～19日	群馬県／水上・奥利根国際スキー場	200	○		
24	H5	1993	2月24日～26日	岐阜県／鷲ヶ岳スキー場	212	○		
25	H6	1994	2月27日～3月2日	北海道／サホロスキー場	180	○		
26	H7	1995	2月28日～3月2日	新潟県／上越国際スキー場	132	○	○	

回	年	西暦	期日	会場	参加数	種 目		
						アルペン スキー	技術 スキー	スノー ボード
27	H8	1996	2月28日～3月1日	青森県／大鰐国際スキー場	75	○	○	
28	H9	1997	2月20日～22日	北海道／朝里川温泉スキー場	94	○	○	
29	H10	1998	1月29日～2月1日	北海道／阿寒湖畔スキー場	—	○	○	
30	H11	1999	2月18日～21日	長野県／野沢温泉スキー場 飯山市北竜湖スキー場	170	○	○	
31	H12	2000	2月17日～20日	山梨県／キッツメドウズ大泉・清里スキー場	107	○	○	○
32	H13	2001	中止					
33	H14	2002	2月14日～17日	山形県／赤倉温泉スキー場	134	○	○	○
34	H15	2003	3月13日～16日	北海道／名寄	80	○	○	○
35	H16	2004	2月26日～29日	富山県／大山町極楽坂スキー場	71	○	○	○
36	H17	2005	2月16日～20日	群馬県／尾瀬戸倉スキー場	92	○	○	○
37	H18	2006	2月2日～5日	岩手県／雫石スキー場	99	○	○	○
38	H19	2007	2月23日～25日	岐阜県／モンデウス飛騨位山 スノーパーク スキー場	53	○	○	○
39	H20	2008	中止					
40	H21	2009	中止					
41	H22	2010	2月19日～21日	北海道／小樽市天狗山国設スキー場	51	○	○	○
42	H26	2014	中止					

※41回大会以降は、4年に1度、デフリンピック冬季大会の前年に行うことになった。

### 3.養成研修事業

厚生省は、昭和40(1965)年から全国身体障害者スポーツ大会が開催されるようになったことを契機に「身体障害者スポーツ指導者講習会」を財団法人日本身体障がい者スポーツ協会に委託し、昭和41(1966)年より開催するようになった。

当初の開催目的は「身体障害者の機能訓練の促進とスポーツの振興」であったが、昭和43(1968)年からは「身体障害者指導者認定講習会」として、身体障がい者のスポーツの健全な普及・振興を目的に行われるようになった。また、昭和48(1973)年からは名称を「身体障害者スポーツ指導者研修会」とし、12日間にわたる研修会を行うようになった。さらに、この年から地方研修会も併せて行われるようになった。その後、中央研修会や地方研修会に加え、すでに指導経験のある指導者を対象とした特別研修会なども行われるようになった。

財団法人日本身体障害者スポーツ協会では、これら研修を受けた指導者の組織的活動を推進するため、昭和60(1985)年に「財団法人日本身体障害者スポーツ協会公認身体障害者スポーツ指導者制度」を発足させた。

この制度による資格は、身体障害者スポーツ指導員(現初級)、上級身体障害者スポーツ指導員(現 中級)、特別上級身体障害者スポーツ指導員(現 上級)、身体障害者スポーツコーチ(現 スポーツコーチ)であった。

その後、平成5(1993)年には「財団法人日本身体障害者スポーツ協会公認身体障害者スポーツ指導員資格取得認定校」を指定する制度を発足し、平成13(2001)年、財団法人日本体育協会公認指導員を対象とした中級指導員養成講習会の開催、そして平成17(2005)年には、財団法人日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ医を新しい資格として確立した。

また、平成21(2009)年、制度の名称を、「財団法人日本障害者スポーツ協会公認資格認定制度」と改称し、資格取得方法を整理した。同年には、「財団法人日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツトレーナー」が確立された。

なお、障害者スポーツコーチは、平成8(1996)年にその在り方について技術委員会等で検討され、翌平成9(1997)年より研修期間を3年間で15日間(1年に5日間)の研修会とした。のち、平成12年、15年の改正を経て、平成23年(2011年)より、1年間で取得可能な前後期制の導入に至った。

平成26(2014)年、協会名称「公益財団法人日本障がい者スポーツ協会」への標記変更に伴い、「障がい」に関する標記について整理した。

#### 障がい者スポーツ指導者数の推移(1991年以降)

	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14
初級	1,022	1,538	2,250	2,983	3,921	5,150	6,639	8,156	10,257	12,235	14,260	16,276	17,568	17,703	18,872	19,438	19,626	18,603	18,871	18,706	18,841	18,778	18,292	18,810
中級	234	251	286	305	360	400	456	563	693	853	965	1,135	1,384	1,598	1,833	1,895	2,114	2,138	2,253	2,322	2,395	2,448	2,519	2,663
上級	63	71	85	94	114	143	174	207	255	287	331	370	401	434	481	540	528	528	631	685	688	695	689	743
合計	1,319	1,860	2,621	3,382	4,395	5,693	7,269	8,926	11,205	13,375	15,556	17,781	19,353	19,735	21,186	21,873	22,268	21,301	21,755	21,713	21,924	21,921	21,500	22,216

※1997年度よりスポーツコーチ養成講習会はじまる

※各年12月31日現在の人数を掲載した

#### 障がい者スポーツ医数の推移

	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14
障がい者スポーツ医	35	55	77	111	138	167	186	203	235	275

#### 障がい者スポーツトレーナー数の推移

	09	10	11	12	13	14
障がい者スポーツトレーナー	38	47	59	68	76	96

#### 障がい者スポーツコーチ数の推移

	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01
障がい者スポーツコーチ	17	33	33	33	33	32	32	32	31	31	31	32	32	33	50	51	58
	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14				
	62	73	74	76	83	87	97	104	134	97	115	125	139				

---

## 第 2 章

---

### パラリンピックのあゆみ

## 1. リハビリの手段としてスポーツを導入

第二次世界大戦(1939~1945年)後、多くの国々で、戦争で障がいを負った軍人たちのリハビリテーションの補助的な方法として、スポーツが徐々に紹介されていった。そして、ヨーロッパ諸国をはじめ、日本、オーストラリア、そして香港などのアジア・太平洋諸国の病院やリハビリテーションセンターにも広がっていった。

この身体障がい者のスポーツの黎明期に大きく貢献したのが、英国のストック・マンデビル病院である。

1944年、イギリスのチャーチル首相らは、ドイツとの戦争激化により負傷し脊髄損傷になる兵士が急増することを見越して、兵士の治療と社会復帰を目的に、ロンドン郊外にあったストック・マンデビル病院内に脊髄損傷科(Spinal Unit)を開設した(1960年に国立脊髄損傷センターと改名)。その初代科長に、1939年にナチスによるユダヤ人排斥運動によりイギリスに亡命した医師、ルードウィヒ・グットマン卿(Sir Ludwig Guttmann)が任命された。グットマン卿は、「手術よりスポーツを」の方針を掲げ、スポーツを治療に取り入れる方法を用いた(1944年にパンチボール訓練を導入、その翌年からは車いすによるポロやバスケットボール、卓球などを導入)。



ストック・マンデビル競技大会

## 2. 国際競技大会へと発展

1948年7月29日、グットマン卿は、ロンドンオリンピックの開会式の日、ストック・マンデビル病院内で16名(男子14名・女子2名)の車いす患者(英国退役軍人)によるアーチェリー大会を開催した。この大会は毎年開催され、1952年にはオランダの参加を得て国際競技会へと発展し、これが第1回国際ストック・マンデビル大会となった(130名が参加)。



グットマン卿

1960年、イギリス、オランダ、ベルギー、イタリア、フランスの5か国により国際ストック・マンデビル大会委員会(ISMGC)が設立され、グットマン卿がその初代会長に就任した。ISMGCは、オリンピック開催年に実施する大会だけは、オリンピック開催国でオリンピック終了後に実施したい旨を表明。同年、オリンピックの開催されたローマにおいて、国際ストック・マンデビル大会が開催された(17か国・138名が参加)。これが第1回パラリンピックである。

## 3. パラリンピック東京大会

グットマン卿は、この大会を観戦していた渡辺華子女史(共同通信社ローマ総局長夫人)と会い、4年後の東京オリンピックの直後に国際ストック・マンデビル大会を開催したい旨を話している。

渡辺女史は、このローマ大会直後に観戦記を新聞に発表。1961年4月、世界歴戦者連盟(W.V.F)の日本理事・沖野亦男と「国立身体障害者更生指導所」所長の稗田正虎氏は、渡辺女史からローマ大会の様態を聞き、日本における身体障がい者のスポーツの高揚について啓蒙活動をはじめ、8月には「身体障害者スポーツ振興会」を組織した(実質的活動はほとんど行われなかった)。

また、渡辺女史から紹介されたとのことで、グットマン卿から沖野、稗田の両氏に、1964年の東京オリンピック直後に東京で国際ストック・マンデビル大会を実施したい旨を記した協力依頼文書が届き、厚生省社会局長に伝えられている。

1962年、国際身体障がい者スポーツ大会開催のための準備委員会が設立された。その委員長に、当時の社会福祉事業振興会会長(元日本障害者スポーツ協会名誉会長)の葛西嘉資氏が就任した。葛西会長は、中村裕博士の協力を得、大会開催のための準備を進めた。

そして1964年、国際ストック・マンデビル大会を第1部(後の第2回パラリンピック)、西ドイツの参加選手を含むすべての身体障がい者を対象とした国内特別大会を第2部とした「国際身体障害者スポーツ大会」が開催された。



パラリンピック東京大会開会式



#### 4. 様々な身体障がいアスリートが参加

第3回、第4回パラリンピックは、第1回大会同様、国際ストーク・マンデビル大会として開催されたが、1976年に開催された第5回トロント大会(トロントリンピアード)は、国際身体障がい者スポーツ機構(ISOD)との共催で行われ、視覚障がい者と切断の選手も参加できるようになった。

また同年、ISODが中心となり、切断者と視覚障がい者による冬季大会がスウェーデンのエンシェルツヴィークで開催された(IPC設立後、第1回冬季パラリンピックと位置づけられた)。

1978年、国際脳性麻痺者協会を基盤として国際脳性麻痺者スポーツ・レクリエーション協会(CPISRA)が設立。

1980年3月、グットマン卿逝去(享年80歳)。この年、国際視覚障がい者スポーツ協会(IBSA)が設立された。またこの年は、モスクワオリンピックの開催年であったが、西側諸国のボイコットの影響もあり、オランダのアーネムで開催された。大会名は「Olympic for the Disabled」とされ、脳性麻痺選手の出場が認められた。

同年2月、ISODにより、ノルウェーのヤイロにおいて第2回冬季大会が実施された。

1982年、ISMGF、ISOD、IBSA、CPISRAの4団体により国際調整委員会(ICC)が発足した。

1984年3月、冬季大会がインスブルックで開催され、21か国から419名の選手が出場した。またこの年は、ロサンゼルスオリンピックの開催年でもあった。当初会場は、車いす競技をイリノイ州で、その他の身体障がい者競技をニューヨーク(この大会から、先天性欠損や低身長などの、その他の機能障がい者(Les Autres)も参加できるようになった)で行う予定であった。ところが、イリノイ州が財政難を理由に急遽キャンセル。そのため、ISMGFが車いす競技を引き受け、英国のストーク・マンデビル病院で実施した(この車いす競技大会は、IOCの承認を得、パラリンピックの名称を使用した)。

1985年、IOCはICCがオリンピック年に開催する国際身体障がい者スポーツ大会を「パラリンピック」と名乗ることに同意した(オリンピックという言葉の名乗ることは禁止された)。しかし、これまで「パラリンピック」は、対麻痺者のオリンピック(Paraplegia's Olympic)という意味で使用されていたことから、その他の身体障がい者を含む国際スポーツ大会にはなじまなくなつたため、「パラ=Parallel(もう一つの)+Olympic(オリンピック)」を表す合成語として用いられるようになった。

1986年、国際ろうスポーツ委員会(ICSD)と国際知的障がい者スポーツ連盟(Inas)がICCに加盟した。

#### 5. ICCからIPCへ 世界最高峰の競技大会

ICCは、国際障害別団体の会長や代表などにより組織されていたため実働組織として十分に機能していなかった。そのため、リハビリの延長ではなく競技性の高いスポーツ大会を望む多くの競技者やスポーツリーダーから不満が続出していた。

そこで1987年、アーネム(オランダ)での会議を契機に、これらの不満を解消するための特別委員会を設立し、すべての競技者や組織、国・地域を統一すべく模索がはじまった。

1988年、ICC主催により「ソウルパラリンピック」が開催され、60か国から3,061名の選手が出場した(ろう者と知的障害者の出場は認められていなかった)。この大会は、IOCがオリンピックとパラリンピックを連動させたはじめての大会であった(オリンピックで使用した会場も使用された)。また同年1月、前回同様インスブルックにおいて第4回冬季大会が実施された。

1989年9月22日、ドイツのデュッセルドルフの会議において、国際パラリンピック委員会(IPC)が創設された。初代会長には、カナダのロバート・D・ステッドワード博士が就任した。

##### 国際パラリンピック委員会

正式名称: International Paralympic Committee (IPC)

加盟国数: 176か国・地域(2014年12月19日現在)

事務局: ドイツ(ボン)

モットー: 「Spirit in Motion (スピリット・イン・モーション)」



従来のロゴとの一貫性という意味から、赤・青・緑の3色を使用している。同時に「パラリンピック選手が卓越した競技者の域に到達し、世界中を興奮・鼓舞させることができるように」というIPCの新しいビジョンを象徴しており、地球を表現したロゴ全体の丸い形状は、パラリンピックムーブメントが全世界に渡っていることを表している。

1992年、ティーニュ／アルベールビルにおいて冬季パラリンピックが開催された。また同年、夏季パラリンピックがスペイン・バルセロナで開催された。この大会はICCが主催・運営し、ドーピングコントロールなどの責任に関してはIPCが負い開催された。また車いすテニスが正式競技に加わった。

1994年、リレハンメルにおいて冬季パラリンピック開催。この大会が実質的なIPC主催の初のパラリンピックとなった(アイススレッジスピードレースが正式競技に加わった)。

1995年、ICSDがIPCから脱会した。

1996年、アトランタパラリンピック開催(馬術が正式競技に加わった)。陸上競技と水泳の一部の種目において、

知的障害者の参加がはじめて認められた。

1997年、ドイツのボン市がIPCの本部誘致に成功。当時、西ドイツの首都であったボン市は東西ドイツ統一後、国際的なステイタスを失うことを危惧していた。そこでボン市は、築100年以上の歴史的な建物と改築費を提供し、1998年9月にIPC事務局が始動した。

1998年、長野県においてわが国初の冬季パラリンピックが開催された。

## 6.IPCとIOC間の協力関係合意

2000年、第11回シドニーパラリンピック開催(ウィルチェアーラグビーとセーリングが正式競技に加わった)。陸上競技、水泳、卓球、バスケットボールへの知的障害者の参加が正式に認められた。ところが、バスケットボールにおいてスペインチームによる障がい詐称事件(健康者が知的障害者として出場していたことが、大会終了後、選手自身の告発により明るみになった)により、以後、IPC主催大会への知的障がい者の参加が凍結された。

大会期間中、ファン・アントニオ・サマランチIOC会長と、ロバート・D・ステッドワードIPC会長によって、IOCとIPCとの協力関係に関する話し合いが持たれ、「オリンピック開催都市は、オリンピック終了後、引き続いてパラリンピックを開催しなければならない」との基本的な合意に達した。

2001年6月19日、スイス・ローザンヌで、サマランチIOC会長と、ステッドワードIPC会長によって、IOCとIPCとの協力関係に関する2度目の話し合いが持たれ、より詳細な協力関係に関する合意がなされた。

主な合意内容は、①この合意は、2008年夏季大会と2010年冬季大会で有効になる。②オリンピック開催国は、オリンピックの終了後、パラリンピックを開催する。③オリンピック組織委員会は、パラリンピックも担当する。④オリンピックで使用する会場は、可能な限りパラリンピックでも使用する。⑤IOCは、パラリンピック開催にともなう財政的援助を行う。⑥IPCは、独自の国際競技連盟をもつ競技団体(IFs)、IPC傘下にある競技(IPC Sports)、国際障害別競技団体(IOSD)を整理し、国際パラリンピック競技連盟の組織化を図るなど組織構成の見直しをする。⑦パラリンピックのエリート性を高めるため、(ア)パラリンピック大会時のクラス分けを極力削除し、例外的な場合のみ行う。(イ)競技数の上限を定める(夏季22まで、冬季8まで)。(ウ)種目数を削減する(夏季450まで、冬季75まで)。(エ)競技成立のための最少出場人数の見直し及び、実施種目が国際レベルに達しているかどうかの見直しを図る。(オ)最多参加人数の制限(選手：夏季4000、冬季800、役員・競技パートナー：夏季2200、冬季900)。⑧オリンピックとパラリンピックは同じ選手村を使用する。⑨パラリンピック選手及び役員の大大会エントリー費は無料とする。⑩選手及び役員の旅費、宿泊及び選手の地上での輸送における条件はオリンピックと同一にする。⑪パラリンピックの放映権は、開催都市オリ

ピック組織委員会が有する。⑫IOCは、オリンピックとパラリンピックの両大会での後援が得られるスポンサー獲得をめざし、IPCはその活動を支援する。⑬オリンピックの放映担当者は、パラリンピックの映像を制作する義務を負う。⑭パラリンピック開催準備のため7年全期間が完全に確保される。

2002年3月、ソルトレークシティ冬季パラリンピック開催。この大会より、アイススレッジスピードレースが実施競技からはずれ、アルペンスキー、クロスカンリースキー、バイアスロン、アイススレッジホッケーの4競技の実施となった。

2004年アテネパラリンピックより、視覚障がい者5人制サッカー、車いすテニス・クワードクラス、女子柔道、女子シッティングバレーボールが正式競技に採用された。なお、知的障がい者の競技は、卓球とバスケットボールが公開競技として行われた。

2006年3月、トリノ冬季パラリンピック開催。この大会より、車いすカーリングが正式競技に採用された。知的障がい者の参加は認められなかった。

2008年9月、北京パラリンピック開催。ボート競技が正式競技に加わった。知的障がい者の参加は、トリノ大会同様、見送られた。

2010年3月、バンクーバー冬季パラリンピック開催。知的障がい者の参加は認められなかった。

2012年8月、ロンドンパラリンピック開催。2004年アテネ大会以降中断されていた知的障がい選手が陸上競技・卓球・水泳の一部の種目に正式参加した。北朝鮮を含む16か国・地域がはじめて参加した。

2014年3月、ソチ冬季パラリンピック開催。アルペンスキー競技にスノーボード・クロスが加わった(下肢障がいクラスのみ対象)。知的障がい者の参加は認められなかった。

## パラリンピック競技大会

### ●夏季競技大会

回	年	西暦	期日	開催地	大会規模			日本選手団		成績			特記事項
					国	選手	役員	選手	役員	金	銀	銅	
1	S34	1960	9月18日～25日	ローマ(イタリア)	23	400							日本不参加
2	S39	1964	11月8日～12日	東京(日本)	21	378	189	53	31	1	5	4	第1部を国際ストック・マンデビル競技大会、第2部を国内大会として実施(当時の正式名称: 国際身体障害者スポーツ大会)
3	S43	1968	11月4日～13日	テルアビブ(イスラエル)	29	750	307	37	26	2	2	8	
4	S47	1972	8月2日～9日	ハイデルベルグ(西ドイツ)	43	984	347	25	12	4	5	3	
5	S51	1976	8月3日～11日	トロント(カナダ)	40	1657		37	14	10	6	3	ISODとの共催。視覚障害と切断の選手も参加
6	S55	1980	6月21日～7月5日	アーネム(オランダ)	42	1973	583	37	13	9	10	7	脳性まひ者が参加
7	S59	1984	6月17日～29日	ニューヨーク(アメリカ)	54	2102	1400	52	29	9	7	8	分裂大会。ニューヨークには立位選手(先天性欠損や低身長などの身体障がい者も参加)、ストックマンデビルには車いす選手が参加。
			7月22日～8月1日	ストックマンデビル(イギリス)									
8	S63	1988	10月15日～24日	ソウル(韓国)	61	3057	1167	141	43	17	12	17	大会名にはじめて正式に「パラリンピック」が使用された。
9	H4	1992	9月3日～14日	バルセロナ(スペイン)	83	3001	918	75	32	8	7	15	
10	H8	1996	8月15日～25日	アトランタ(アメリカ)	104	3259	1717	81	42	14	10	13	陸上競技、水泳への知的障害者の参加が認められた。
11	H12	2000	10月18日～29日	シドニー(オーストラリア)	122	3881	2315	151	89	13	17	11	陸上競技、水泳、卓球、バスケットボールへの知的障害者の参加が認められた。
12	H16	2004	9月17日～28日	アテネ(ギリシャ)	135	3808	2000	163	108	17	15	20	
13	H20	2008	9月6日～17日	北京(中国)	146	3951	2000	162	132	5	14	8	ボートが正式競技に加わった。ボッチャ、シッティングバレーボール(女子)に日本初参加。
14	H24	2012	8月29日～9月9日	ロンドン(イギリス)	164	4237	2430	135	121	5	5	6	陸上競技、水泳、卓球への知的障害者の参加が認められた。

●冬季競技大会

回	年	西暦	期日	開催地	大会規模		日本選手団		成績			特記事項
					国	選手	国	選手	金	銀	銅	
1	S51	1976	2月23日～28日	エンシェルツヴィーク (スウェーデン)	16	53	0	0	0	0	0	日本不参加。
2	S55	1980	2月1日～7日	ヤイロ (ノルウェー)	18	299	5	6	0	0	0	
3	S59	1984	1月18日～24日	インスブルック (オーストリア)	21	419	12	9	0	0	0	アイススレッジスピードレースが正式競技に加わった。
4	S63	1988	1月18日～24日	インスブルック (オーストリア)	22	377	14	13	0	0	2	
5	H4	1992	3月25日～4月1日	ティエニュー/ アルベールビル (フランス)	24	365	15	28	0	0	2	エントリー数と会場の問題でアイススレッジスピードレースは実施せず。知的障がいと視覚障がいのデモンストラーションイベントを実施。
6	H6	1994	3月10日～19日	リレハンメル (ノルウェー)	31	471	27	36	0	3	3	IPC主催の初のパラリンピック。アイススレッジホッケーが正式競技に加わった。
7	H10	1998	3月5日～14日	長野 (日本)	31	571	70	71	12	16	13	歴代最高位のメダルランキング4位を記録。
8	H14	2002	3月7日～16日	ソルトレークシティ (アメリカ)	36	416	36	40	0	0	3	
9	H18	2006	3月10日～19日	トリノ (イタリア)	38	474	40	50	2	5	2	車いすカーリングが正式競技に加わった。
10	H22	2010	3月12日～21日	バンクーバー (カナダ)	44	502	41	53	3	3	5	
11	H26	2014	3月7日～16日	ソチ (ロシア)	45	547	42	13	3	1	2	アルペン競技にスノーボードが新種目として加わった。

パラリンピック競技大会 実施競技

●夏季競技大会

回	開催地	AR	AT	WB	DA	WF	SN	SW	TT	PO	LB	GB	SH	SIV	STV	WL	BO	CY	EQ	F7	F5	WT	JU	WR	SA	RW	IDB	CN	TR
1	ローマ	○	○	○	○	○	○	○	○																				
2	東京	○	○	○	○	○	○	○	○	○																			
3	テルアビブ	○	○	○	○	○	○	○	○	○																			
4	ハイデルベルグ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	▲																	
5	トロント	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○														
6	アーネム	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○													
7	ニューヨーク アイレスペリー	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○									
8	ソウル	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○					▲	○					
9	バルセロナ	○	○	○		○		○	○	○		○	○	○	○		○	○					○	○					
10	アトランタ	○	○	○		○		○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○			○	○	▲	▲			
11	シドニー	○	○	○		○		○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○			○	○	○	○		○	
12	アテネ	○	○	○		○		○	○	○		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
13	北京	○	○	○		○		○	○	○		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
14	ロンドン	○	○	○		○		○	○	○		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
15	リオ	○	○	○		○		○	○	○		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○

○ 実施競技

▲ デモンストレーション競技

AR	アーチェリー	PO	パワーリフティング	CY	自転車競技	RW	ボート
AT	陸上競技	LB	ローンボウルズ	EQ	馬術	IDB	知的障害者バスケットボール
WB	車椅子バスケットボール	GB	ゴールボール	F7	脳性麻痺者7人制サッカー	CN	カヌー
DA	ダーチェリー	SH	射撃	F5	視覚障害者5人制サッカー	TR	トライアスロン
WF	車いすフェンシング	SIV	シットイングバレーボール	WT	車いすテニス		
SN	スノーカー	STV	スタンディングバレーボール	JU	柔道		
SW	水泳	WL	レスリング	WR	ウィルチェアアーラゲビー		
TT	卓球	BO	ボッチャ	SA	セーリング		

●冬季競技大会

回	開催地	AS	CR	BT	IS	IH	WC	数
1	エンシェルトツヴィーク	○	○					2
2	ヤイロ	○	○					2
3	インスブルック	○	○		○			3
4	インスブルック	○	○		○			3
5	アルペールビル	○	○	○	—			3
6	リレハンメル	○	○	○	○	○		5
7	長野	○	○	○	○	○		5
8	ソルトレークシティ	○	○	○		○		4
9	トリノ	○	○	○		○	○	5
10	バンクーバー	○	○	○		○	○	5
11	ソチ	○	○	○		○	○	5

AS	アルペンスキー	CR	クロスカントリースキー	BT	バイアスロン
IS	アイススレッジスピードレース	IH	アイススレッジホッケー	WC	車いすカーリング

## アジアパラ競技大会

1975年より9回にわたり開催してきたフェスピック競技大会の実績を引き継ぐとともに、アジア地域におけるパラリンピック・ムーブメントの推進と競技スポーツのさらなる進展を図るために開催するアジア地域の障害者総合スポーツ大会。4年に一度、国際パラリンピック委員会(IPC)の地域委員会であるアジアパラリンピック委員会(APC)が主催する。

### <実施競技>

正式競技は規定されていないが、基本的な考え方としては、パラリンピック正式競技のうちアジア地域で一定の参加数が見込める競技と、フェスピック大会実施競技としての実績のある競技の中から決定される。

## アジアパラリンピック委員会 Asian Paralympic Committee (APC)

(加盟国) 42か国・地域

(会 長) マジッド・アル・オサイミ(UAE)

(設立経緯)

2002年10月、IPCの地域委員会のひとつとして設立されたが、2005年1月1日より従来のIPCアジア地域と中東地域が合併し全アジア地域の代表団体として活動を開始した。2006年11月27日、フェスピック連盟とアジアパラリンピック評議会が解散し、28日、二つの組織が合併して、アジアパラリンピック委員会が正式に発足した。これに伴い従来フェスピック連盟に加盟していたオセアニア地域の国々は、新たにオセアニアパラリンピック委員会を設立し、IPCの地域委員会として独立した。

年	西暦	期日	開催地	大会規模				日本選手団			成績			実施競技	
				国	選手	支援選手	役員	計	選手	役員	計	金	銀		銅
H22	2010	12月12日～19日	中国 広州	41	2,289	24	1,451	359	223	136	103	32	39	32	アーチェリー、陸上競技、バドミントン、ボッチャ、自転車競技、5人制サッカー、7人制サッカー、ゴールボール、柔道、パワーリフティング、ボート、射撃、水泳、シッティングバレーボール、テンピンボウリング、卓球、車椅子バスケットボール、車いすフェンシング、車いすテニス (19競技)
H26	2014	10月18日～24日	韓国 仁川					476	287	189	143	38	49	56	アーチェリー、陸上競技、バドミントン、ボッチャ、自転車競技、5人制サッカー、7人制サッカー、ゴールボール、柔道、パワーリフティング、ローイング、セーリング、射撃、水泳、シッティングバレーボール、テンピンボウリング、卓球、車椅子バスケットボール、車いすフェンシング、車いすテニス、車いすダンス、ウィルチェアーラグビー、ローンボウルズ (23競技)

## アジアユースパラ競技大会(フェスピックユース競技大会)

アジアパラリンピック委員会(APC)が主催。アジア地域の障害のある若い世代が競い合う国際総合競技大会。

2003年に香港で開催されたFESPICユース競技大会を第1回大会としている。

西暦	期日	開催地	大会規模			日本選手団			成績			実施競技	備考	
			国	選手	役員	計	選手	役員	計	金	銀			銅
2003	12月23日～28日	中国香港 特別行政区 沙田	15	311	183	54	29	25	57	31	16	10	陸上競技、バドミントン、ボッチャ、卓球、水泳	・年齢区分 (A:16～19歳 B:12～15歳)
2009	9月8日～13日	日本 東京	25	463	335	213	133	80	123	65	36	22	陸上競技、水泳、卓球、ボッチャ、ゴールボール ※オープン競技として車いすテニスが行われた	・開会式に皇太子殿下のご臨席を賜る ・年齢区分 (A:17～19歳 B:14～16歳)
2013	10月26日～30日	マレーシア クアラルンプール	27	723	548	165	93	72	84	39	20	25	陸上競技、水泳、柔道、チェス、テンピンボウリング、パワーリフティング、バドミントン、車いすテニス、ボッチャ、アーチェリー、車椅子バスケットボール、卓球、ゴールボール、シッティングバレーボール	・年齢区分は競技により異なる ※日本は下線の6競技に参加

※2003年大会はフェスピックユース大会として実施

---

## 參考資料

---

JPCまたは当協会登録団体が加盟する国際スポーツ組織

JPC加盟国際スポーツ組織

IPC	正式名称: International Paralympic Committee 日本語名: 国際パラリンピック委員会 事務局: ドイツ(ボン) 加盟組織: 日本パラリンピック委員会(JPC)
-----	---

障がい別国際組織 (IOSDs)

IWAS	正式名称: International Wheelchair & Amputee Sports Federation 日本語名: 国際車いす・切断者スポーツ連盟 事務局: イギリス(エイルズベリー)
CPISRA	正式名称: Cerebral Palsy International Sports and Recreation Association 日本語名: 国際脳性麻痺者スポーツレクリエーション協会 事務局: カナダ(エドモントン)
IBSA	正式名称: International Blind Sport Federation 日本語名: 国際視覚障がい者スポーツ連盟 事務局: オランダ(ザイスト)
Inas	正式名称: Inas 日本語名: アイナス 事務局: イギリス(バーミンガム)

IPC 地域組織 (Regional Organizations)

APC	正式名称: Asian Paralympic Committee 日本語名: アジアパラリンピック委員会 事務局: マレーシア(クアラルンプール)
-----	---

パラリンピック競技国際統括組織 (IFs)

IPC スポーツ	アルペンスキー、陸上競技、バイアスロン、クロスカン트리ースキー、 アイススレッジホッケー、パワーリフティング、射撃、水泳、車いすダンススポーツ
IOSD スポーツ	5人制サッカー (IBSA)、ゴールボール (IBSA)、 柔道 (IBSA)、車いすフェンシング (IWAS)
IF スポーツ	アーチェリー (世界アーチェリー連盟)、カヌー (国際カヌー連盟)、自転車 (国際自転車競技連合)、 馬術 (国際馬術連盟)、7人制サッカー (国際脳性麻痺者サッカー連盟)、ボート (国際ボート連盟)、 セーリング (国際障害者セーリング連盟)、卓球 (国際卓球連盟)、 シットイングバレーボール (世界パラバレーボール機構)、トライアスロン (国際トライアスロン連合) 車椅子バスケットボール (国際車椅子バスケットボール連盟)、 車いすカーリング (世界カーリング連盟)、 ウィルチェアーラグビー (国際ウィルチェアーラグビー連盟)、 車いすテニス (国際テニス連盟)、ボッチャ (国際ボッチャ競技連盟)

ICSD	正式名称: International Committee of Sports for the Deaf 日本語名: 国際ろうスポーツ委員会 本 部: アメリカ(ワシントンDC) 加盟組織: 財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会
------	--

SO	正式名称: Special Olympics 日本語名: スペシャルオリンピックス 本 部: アメリカ(ワシントンDC) 加盟組織: 公益財団法人スペシャルオリンピックス日本
----	--



## 障がい者スポーツの国際動向

- 1 IPCやその加盟団体が主催するパラリンピック大会や世界選手権大会といった国際大会に出場するためには、一定の競技水準に達した者でなければ参加資格を与えられず、競技性が追求されるようになった。
- 2 2000年シドニーパラリンピック開催中、サマランチIOC会長(当時)と、ステッドワードIPC会長(当時)によって、IOCとIPCとの協力関係に関する話し合いが持たれ、「2008年以降、オリンピック開催都市は、オリンピック終了後、引き続いてパラリンピックを開催しなければならない」との基本的な合意に達した。その後も同一組織委員会による大会運営や、オリンピックーパラリンピック共同のスポンサー契約の締結等の交渉が両組織の間で進行しており、「もう一つのオリンピック」と呼ばれるにふさわしい、世界最高峰の障がい者スポーツ大会へと発展し続けている。
- 3 上記の協力体制の強化に伴い、IPCの組織およびガバナンスも強化された。中でも、マーケティング体制整備に伴うロゴや用語、肖像権の管理体制の強化、大会出場資格に関する厳密な規則整備、競技別団体の独立運営の推進、アンチドーピング規則の遵守といったような動きが挙げられる。
- 4 2000年シドニーパラリンピック大会で、一部の健常選手が知的障がい者と偽って大会に参加した。このためIPCは2001年の臨時総会でInas(当時)の資格認定に対する以下の見直しを求め、合意が得られるまでは、パラリンピック大会を含むIPC公認大会には知的障がいのある選手の出場を保留することとなった。
  - (1)知的障がいがあるということを証明するための判定基準を設定し、妥当性を証明すること。
  - (2)選手が出場する特定の競技や種目において、知的障がいがある選手がその競技に対してどのように影響をおよぼしているかを評定するための障がい要因を証明すること。
  - (3)抗議・上訴手順のために必要な構成要素や情報を構築すること。

2004年11月のIPC臨時総会で、Inasの加盟権を復権した。その後競技ごとに、上記資格認定制度の見直しを行い、合意できた競技からIPC公認大会で正式競技として実施することとなった。

2004年アテネパラリンピック大会では、知的障がいのある選手の競技は、Exhibition(公開競技)として、卓球、バスケットボールの2競技が実施された。2006年トリノ冬季パラリンピック大会では実施されず、2008年北京パラリンピック大会でも実施されなかった。

知的障がいのある選手のパラリンピック大会を含むIPC公認大会への参加について2007年に共同ワーキンググループを設立し、参加資格、競技特性、競技中の抗議・上訴手続きの3つの領域の解決に向けた活動を続けてきたIPCとInasは、2009年9月、2012年ロンドンパラリンピック大会やそれ以降の大会での知的障がいのある選手の参加受入れを確実にする進展を見せた旨の共同声明を発表した。

知的障がいのある選手の資格認定については、上記4の条件を「前提条件」とし、タッチパネル式の検査および競技ごとの実技検査をあわせて他障がい同様の「Inasクラス分け」手順とすることが確定した。

陸上競技、水泳、卓球の3競技については、クラス分け手順がIPCに承認され、2012年ロンドンパラリンピック大会ではこの3競技において、知的障がいのある選手の種目が再導入された。

冬季競技においても、クロスカントリースキーの資格認定方法の検討が始まっている。
- 5 2013年9月、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の実施が決定した。
- 6 2013年11月、山脇康JPC委員長が日本人としては11年ぶりにIPC理事に選出された。
- 7 2014年12月、水野正幸JPC副委員長がAPC副会長(理事)に、陶山哲夫JPSA医学委員長がAPC医事科学委員長(理事)に選出された。

国際ストーク・マンデビル車椅子競技大会

回	年	西暦	期日	開催地	選手団			メダル			備考・その他国際大会
					選手	役員	計	金	銀	銅	
<b>第1回大会から第10回大会には不参加。</b>											
11	S37	1962	7月25日～28日	イギリス	2	3	5	0	0	0	初参加
12	S38	1963	7月24日～27日	イギリス	2	6	8	0	0	0	パラリンピック東京大会準備打ち合わせ
13	S39	1964	11月8日～12日	東京	53	31	84	1	5	3	パラリンピック 東京大会
14	S40	1965	7月20日～24日	イギリス	3	8	11	0	0	0	
15	S41	1966	7月26日～30日	イギリス	4	6	10	1	1	1	
16	S42	1967	7月25日～30日	イギリス	5	3	8	1	1	1	同日程にて西ドイツ親善大会に参加(7月21日・22日)
17	S43	1968	11月4日～13日	テルアビブ	37	26	63	2	2	9	パラリンピック イスラエル大会
18	S44	1969	7月28日～8月2日	イギリス	6	6	12	3	1	4	同日程にてオーストリア 第2回国際下半身麻痺者スポーツ大会参加(7月22日～24日)
19	S45	1970	7月19日～24日	イギリス	6	4	10	4	1	0	
20	S46	1971	7月25日～31日	イギリス	6	4	10	2	2	2	
21	S47	1972	8月2日～9日	ハイデルベルグ	25	12	37	4	5	3	パラリンピック ハイデルベルグ大会
22	S48	1973	7月16日～22日	イギリス	6	4	10	3	3	2	
23	S49	1974	7月21日～27日	イギリス	6	4	10	2	4	3	同日程にてローマ国際大会へ参加
24	S50	1975	7月20日～26日	イギリス	6	4	10	3	1	2	
<b>第5回パラリンピック</b>											
26	S52	1977		イギリス							第2回フェスピックのため参加せず
27	S53	1978	7月23日～29日	イギリス	15	10	25	3	4	3	
28	S54	1979	7月23日～29日	イギリス	15	10	25	5	4	1	
<b>第6回パラリンピック</b>											
30	S56	1981	7月26日～8月1日	イギリス	15	10	25	7	6	2	
31	S57	1982	7月25日～31日	イギリス	14	10	24	4	2	2	
32	S58	1983	7月24日～30日	イギリス	15	10	25	1	3	1	
<b>第7回パラリンピック</b>											
34	S60	1985	7月28日～8月4日	イギリス	15	10	25	4	3	4	
35	S61	1986	7月27日～8月3日	イギリス	15	10	25	7	4	2	
36	S62	1987	7月26日～8月2日	イギリス	14	16	30	3	3	6	同日程にて第11回オーストリア国際脊損スポーツ大会に参加

回	年	西暦	期日	開催地	選手団			メダル			備考・その他国際大会
					選手	役員	計	金	銀	銅	
<b>第8回パラリンピック</b>											
38	H1	1989	7月23日～30日	イギリス	15	12	27	0	0	3	
39	H2	1990	7月28日～8月4日	イギリス	8	11	19	5	4	3	同日程にてバスケットボールチーム(男子)は、ゴールドカップ大会(ベルギー)に出場
40	H3	1991	7月20日～31日	イギリス	14	18	32	0	1	2	
<b>第9回パラリンピック</b>											
42	H5	1993	8月25日～30日	イギリス	13	14	27	5	4	3	イタリア(ミラノ市)で開催予定であったが中止となる。急遽英国で開催されたが陸上、アーチェリー、バスケットボールが行われない変則の大会となった。
43	H6	1994	7月22日～30日	イギリス	12	15	27	2	3	5	陸上は5種目のみ。水泳実施せず
44	H7	1995	7月21日～28日	イギリス	14	14	28	1	2	5	
<b>第10回パラリンピック</b>											
46	H9	1997	7月25日～8月2日	イギリス							参加せず
47	H10	1998	8月20日～30日	イギリス	20	30	50				日本よりウィルチェアーラグビーチーム及びツインバスケットボールチームが参加。ツインバスケットボールチームはデモンストラーションを行う。
48	H11	1999	10月11日～17日	ニュージーランド (クライスト チャーチ市)	38	20	58	14	10	3	陸上、水泳、ウィルチェアーラグビー、アーチェリー、パワーリフティング
<b>49回から51回まで不参加</b>											
52	H15	2003	10月25日～11月2日	ニュージーランド (クライスト チャーチ市)	23	24	39	9	10	2	水泳、陸上、ウィルチェアーラグビー、キュースポーツ、アーチェリー切断選手も参加。

## デフリンピック

### ■夏季競技大会

回	開催年	開催国	開催都市	日本代表団派遣		
				選手	役員	計
1	1924	フランス	パリ			非加盟
2	1928	オランダ	アムステルダム			〃
3	1931	西ドイツ	ニュルンベルク			〃
4	1935	イギリス	ロンドン			〃
5	1939	スウェーデン	ストックホルム			〃
6	1949	デンマーク	コペンハーゲン			〃
7	1953	ベルギー	ブリュッセル			〃
8	1957	イタリア	ミラノ			〃
9	1961	フィンランド	ヘルシンキ			〃
10	1965	アメリカ	ワシントンD.C.	7	4	11
11	1969	ユーゴスラビア	ベオグラード	9	4	13
12	1973	スウェーデン	マルメ	9	4	13
13	1977	ルーマニア	ブカレスト	17	8	25
14	1981	西ドイツ	ケルン	34	11	45
15	1985	アメリカ	ロサンゼルス	52	15	77
16	1989	ニュージーランド	クライストチャーチ	40	16	56
17	1993	ブルガリア	ソフィア	41	13	54
18	1997	デンマーク	コペンハーゲン	44	14	58
19	2001	イタリア	ローマ	60	26	86
20	2005	オーストラリア	メルボルン	102	33	135
21	2009	台湾	台北	154	91	245
22	2013	ブルガリア	ソフィア	149	70	219

※19回大会からデフリンピックと言う。

### ■冬季競技大会

回	開催年	開催国	開催都市	日本代表団派遣		
				選手	役員	計
1	1949	オーストリア	ゼーフェクト			非加盟
2	1953	ノルウェー	オスロ			〃
3	1955	西ドイツ	オーバーアマガウ			〃
4	1959	スイス	モンタナブフーナラ			〃
5	1963	スウェーデン	オーレ			〃
6	1967	西ドイツ	ベルヒテスガーデン	3	3	6
7	1971	スイス	アデルボーデン			不参加
8	1975	アメリカ	レイクプラシッド	10	3	13
9	1979	フランス	メリベル	8	5	13
10	1983	イタリア	マドンナ・ディ・カンピリオ	9	6	15
11	1987	ノルウェー	オスロ	10	4	14
12	1991	カナダ	バンフ	9	6	15
13	1995	フィンランド	ウツラス	10	5	15
14	1999	スイス	ダボス	10	5	15
15	2003	スウェーデン	スツバル	14	15	29
16	2007	アメリカ	ソルトレークシティ	17	22	39
17	2011	スロバキア	ハイタラス			中止

フェスピック競技大会

回	年	西暦	期日	開催地	参加国	参加数	日本選手団							日本の成績					
							車椅子	切断	視覚	CP	機能	ろうあ	計	役員	合計	金	銀	銅	計
1	S50	1975	6月1日～3日	日本 大分市・別府市	18	973	116	41	88	0	221	76	542	207	749	247	168	124	539
2	S52	1977	11月20日～26日	オーストラリア パラマッタ市	16	430	25	7	2	0	0	-	34	22	56	41	22	16	79
3	S57	1982	10月31日～11月7日	香港 沙田市	23	744	37	9	13	5	0	-	64	39	103	57	44	27	128
4	S61	1986	8月31日～9月7日	インドネシア スラカルタ市	19	834	21	8	10	7	0	-	46	32	78	42	36	27	105
5	H1	1989	9月15日～20日	日本 神戸市	41	1,646	212	89	78	54	81	-	514	72	586	80	127	103	310
6	H6	1994	9月4日～10日	中国 北京市	42	2,081	21	25	12	8	21	-	87	39	126	37	26	25	88
7	H11	1999	1月10日～16日	タイ バンコク市	34	2,258	24	25	20	12	12	知的 5	98	44	142	27	30	29	86
8	H14	2002	10月26日～11月1日	韓国 釜山市	40	2,199	選手数(知的) 138(19)			役員数(知的) 70(6)			合計(知的) 208(25)			45 (12)	36 (11)	29 (4)	110 (27)
9	H18	2006	11月25日～12月1日	マレーシア クアラルンプール	46	3,641	選手数(知的) 162(16)			役員数(知的) 98(8)			合計(知的) 260(24)			29 (9)	33 (6)	38 (8)	100 (23)

2006年11月27日解散(翌28日、アジアパラリンピック評議会と合併→アジアパラリンピック委員会発足)

フェスピック競技大会実施競技

回	開催地	AR	AT	TT	SW	WF	PO	WB	DA	SN	SH	LB	CH	BD	VB	FB	JU	WT	BO	GB	CY	SA	TB	競技数	
1	大分市、別府市	○	○	○	○	○	○	○	○															8	
2	パラマッタ市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○													11
3	沙田市	○	○	○	○	○	○	○			○	○													9
4	スラカルタ市	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○											11
5	神戸市	○	○	○	○	○	○	○			○	○			○	○	○	○							13
6	北京市	○	○	○	○	○	○	○			○			○	○		○	○	○	○					14
7	バンコク市	○	○	○	○	○	○	○			○			○	○	○	○	○	○	○					15
8	釜山市	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○			17
9	クアラルンプール市	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		19

AT 陸上競技	WB 車椅子バスケットボール	BD バドミントン	GB ゴールボール
SW 水泳	DA ダーチェリー	VB バレーボール	CY 自転車競技
TT 卓球	SN スヌーカー	FB サッカー	SA セーリング
AR アーチェリー	SH 射撃	JU 柔道	TB テンピンボウリング
WF 車いすフェンシング	LB ローンボウルズ	WT 車いすテニス	
PO パワーリフティング	CH チェス	BO ボッチャ	

## スペシャルオリンピックス世界大会

### ●夏季競技大会

回	年	西暦	開催国	開催都市・州	参加国地域数	選手数(日本選手団)
1	S43	1968	アメリカ	シカゴ	3	1,000
2	S46	1970	アメリカ	シカゴ	3	2,400
3	S48	1972	アメリカ	ロスアンゼルス	3	1,500
4	S50	1975	アメリカ	ミシガン州	12	2,000
5	S54	1979	アメリカ	ニューヨーク州	20	2,500
6	S58	1983	アメリカ	ルイジアナ州	48	4000(68)
7	S62	1987	アメリカ	インディアナ州	60	4500(30)
8	H2	1991	アメリカ	ミネソタ州	107	6000(124)
9	H6	1995	アメリカ	コネチカット州	145	7000(29)
10	H10	1999	アメリカ	ノースカロライナ州	150	7,000(45)
11	H14	2003	アイルランド	ダブリン	166	7,000(77)
12	H19	2007	中国	上海	169	7,000(120)
13	H23	2011	ギリシャ	アテネ	170	6,961(75)

### ●冬季競技大会

回	年	西暦	開催国	開催都市・州	参加国地域数	選手数(日本選手団)
1	S52	1977	アメリカ	コロラド州	2	346
2	S56	1981	アメリカ	バーモント州	7	600
3	S60	1985	アメリカ	ユタ州	14	825(8)
4	H1	1989	アメリカ	ネバダ州 カリフォルニア州	27	1000(5)
5	H5	1993	オーストリア	ザルツブルグ	51	1200(5)
6	H9	1997	カナダ	トロント	82	1,780(16)
7	H13	2001	アメリカ	アラスカ州	80	2,000(17)
8	H17	2005	日本	長野	84	1,829(150)
9	H21	2009	アメリカ	アイダホ州	100	2,200(87)
10	H25	2013	韓国	ピョンチャン	113	3,300(85)

国内外の動向

年	情勢/法令等	国際的な流れ	わが国の流れ	
1878	M11		京都府盲啞院創立	
1888	M21	ドイツで聴覚障害者のためのスポーツクラブ創設		
1889	M22	「大日本帝国憲法」発布		
1890	M23		松本尋常小学校「落第生学級」設置	
1910	M43	ドイツ聴覚障害者スポーツ協会創設		
1922	T11	身体障害者自転車クラブ創立(イギリス)		
1923	T12	関東大震災		
1924	T13	第8回夏季オリンピック 第1回冬季オリンピック	国際聴覚障害者スポーツ連盟(CISS)設立(現ICSD) 第1回デフリンピック夏季競技大会開催 (フランス・パリ)	
1928	S3	第9回夏季オリンピック 第2回冬季オリンピック	第2回デフリンピック夏季競技大会開催 (オランダ・アムステルダム)	
1931	S6		第3回デフリンピック夏季競技大会開催 (西ドイツ・ニュールンベルグ)	
1932	S7	第10回夏季オリンピック 第3回冬季オリンピック	英国片上肢ゴルフ協会設立(イギリス)	
1933	S8		視覚障害者水泳大会開催(ノルウェー)	第1回京阪神聾啞陸上競技大会開催
1934	S9			
1935	S10		第4回デフリンピック夏季競技大会開催 (イギリス・ロンドン)	
1936	S11	第11回夏季オリンピック 第4回冬季オリンピック		
1937	S12	教育審議会設置		
1939	S14		第5回デフリンピック夏季競技大会開催 (スウェーデン・ストックホルム)	
1945	S20	国連憲章	フィンランド戦傷者スポーツ協会設立	
1946	S21	「日本国憲法」公布		
1947	S22	「児童福祉法」公布	ケルンスポーツ大学「身体障害者スポーツ講座」開設(H.ローレンツェン教授)	全日本聾啞連盟設立
1948	S23	第14回夏季オリンピック 第5回冬季オリンピック  ドイツ分断	世界精神衛生連盟(WFMH)結成 英国ストーク・マンデビル病院スポーツフェスティバル開催	第1回野球大会開催(ろう者) ヘレンケラー来日
1949	S24	国連児童権利宣言 「身体障害者福祉法」公布 「社会教育法」公布	ストーク・マンデビル競技会開催 (イギリス・エイルズベリー) 第6回デフリンピック夏季競技大会開催 (デンマーク・コペンハーゲン) 第1回デフリンピック冬季競技大会開催 (オーストリア・ゼーフェクト)	
1950	S25	「精神衛生法」公布 「生活保護法」公布	第1回戦傷者スポーツ大会(ドイツ) 第1回切断者スキー大会開催(ドイツ) ストーク・マンデビル競技会開催 (イギリス・エイルズベリー)	

年	情勢/法令等	国際的な流れ	わが国の流れ	
1951	S26	ドイツ戦傷者スポーツ研究会(ADV)設立 ストック・マンデビル競技会開催 (イギリス・エイルズベリー)	第1回東京都身体障害者スポーツ大会開催 厚生省、第1回身体障害者実態調査実施	
1952	S27	第15回夏季オリンピック 第6回冬季オリンピック	第1回国際ストック・マンデビル大会開催 (イギリス・エイルズベリー)	北陸五県対抗野球大会開催(ろう者) 全国精神薄弱児育成会(手をつなぐ親の会)結成 全九州ろうあ者卓球大会開催
1953	S28	第7回デフリンピック夏季競技大会開催 (ベルギー・ブリュッセル) 第2回デフリンピック冬季競技大会開催 (ノルウェー・オスロ) 第2回国際ストック・マンデビル大会開催 (イギリス・エイルズベリー)	(社)日本精神衛生連盟設立(H9年、日本精神保健福祉連盟に改称)	
1954	S29	第3回国際ストック・マンデビル大会開催 (イギリス・エイルズベリー)		
1955	S30	第3回デフリンピック冬季競技大会開催 (西ドイツ・オーバーアマガウ) 第4回国際ストック・マンデビル大会開催 (イギリス・エイルズベリー)	第1回全国ろうあ優勝野球大会 第1回アジア盲人福祉会議開催(東京)	
1956	S31	第16回夏季オリンピック 第7回冬季オリンピック	第5回国際ストック・マンデビル大会開催 (イギリス・エイルズベリー)	
1957	S32	ドイツ戦傷者スポーツ協会(DVS)設立(1975年「ドイツ障害者スポーツ協会(DBS)」に改名) 第8回デフリンピック夏季競技大会開催 (イタリア・ミラノ) 世界歴戦者連盟主催「身体障害者のスポーツの専門家会議」開催		
1958	S33	「学校保健法」公布	国際肢体不自由者福祉協会世界大会「スポーツ部会」開催	第1回長野県身体障害者スポーツ大会開催(長野)
1959	S34	第4回デフリンピック冬季競技大会開催 (スイス・モンタナブフナーラ) 第8回国際ストック・マンデビル大会開催 (イギリス・エイルズベリー)		
1960	S35	第17回夏季オリンピック 国際ストック・マンデビル大会委員会(ISMGC)設立 第8回冬季オリンピック	身体障害者のためのスポーツの国際的な運営グループとして、International Working Group on Sports for the Disabledが設立 第1回パラリンピック夏季競技大会開催 (イタリア・ローマ) 脊髄損傷	渡辺華子女史、第1回ローマ大会観戦。 その後、観戦記を新聞発表
1961	S36	「スポーツ振興法」公布 障害福祉年金支給開始	英国対麻痺障害者スポーツ協会(BSAD)設立 第9回デフリンピック夏季競技大会開催 (フィンランド・ヘルシンキ)	啓蒙冊子「身体障害者スポーツ」刊行(沖野) 大分県身体障害者スポーツ大会開催(大分) 身体障害者スポーツ振興会結成
1962	S37	第1回英連邦麻痺障害者競技会開催 (オーストラリア) 第11回国際ストック・マンデビル大会開催 (イギリス・エイルズベリー)	第1回英連邦麻痺障害者競技会開催 (オーストラリア) 第11回国際ストック・マンデビル大会開催 (イギリス・エイルズベリー)	国際身体障害者スポーツ大会準備委員会結成 「身体障害者のスポーツに関する研究」(稗田) 第11回ストック・マンデビル大会に2名の日本選手初参加
1963	S38	厚生省社会局長通知: 「身体障害者スポーツ振興について」	第5回デフリンピック冬季競技大会開催 (スウェーデン・オーレ) 第12回国際ストック・マンデビル大会開催 (イギリス・エイルズベリー) 第1回国際身体障害者スポーツ大会開催 (オーストリア・リンツ)	身体障害者体育大会山口大会開催(山口) 第1回国際身体障害者スポーツ大会に5名の日本選手初参加 全国聾学校体育連盟設立 財団法人国際身体障害者スポーツ大会運営委員会設立 日本ろうあ体育協会設立(現全日本ろうあ連盟スポーツ委員会)



年	情勢/法令等	国際的な流れ	わが国の流れ
1964	S39 第18回夏季オリンピック 第9回冬季オリンピック	International Working Group on Sports for the Disabled が内部の意見対立等により解散。これに代わって国際身体障害者スポーツ機構 (ISOD) が設立 第2回パラリンピック夏季競技大会 (東京) 脊髄損傷	国際身体障害者スポーツ大会・第2部国内大会開催 第13回脊髄損傷学会開催 (グットマン博士に勲章伝達：勲三等旭日章) 第1回全国ろうあ卓球・体操選手権大会開催
1965	S40	第10回デフリンピック夏季競技大会開催 (アメリカ・ワシントン)	(財)日本身体障害者スポーツ協会設立 第1回全国身体障害者スポーツ大会開催 (岐阜)
1966	S41	第2回国際身体障害者スポーツ大会開催 (オーストリア・リンツ) 第2回英連邦麻痺障害者競技会開催 (ジャマイカ)	第2回全国身体障害者スポーツ大会開催 (大分) 身体障害者スポーツ指導者講習会はじまる (JSAD 主催) (全スポ大会を円滑に進めるための伝達講習の色合い)
1967	S42	ISOD 本部をバリからイギリスに移設 (事務局：ストーク・マンデビル) 第6回デフリンピック冬季競技大会開催 (西ドイツ・ベルヒテスガーデン) 第1回汎アメリカ競技会 (カナダ・ウイニペグ)	第1回全国ろうあ者体育大会開催 第6回デフリンピックへ日本選手団初参加 わが国初の車椅子バスケットチーム「東京スポーツ愛好クラブ」誕生 第3回全国身体障害者スポーツ大会開催 (埼玉) 身体障害者スポーツ指導者講習会 (JSAD 主催)
1968	S43 第19回夏季オリンピック 第10回冬季オリンピック	スペシャルオリンピックス設立 (アメリカ) 国際脳性麻痺協会設立 第3回パラリンピック夏季競技大会開催 (イスラエル・テルアビブ) 脊髄損傷 第1回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催 (アメリカ・シカゴ)	第1回全国ろうあ者冬季体育大会開催 身体障害者スポーツ指導者認定講習会 (JSAD 主催) 第4回全国身体障害者スポーツ大会開催 (福井)
1969	S44	第11回デフリンピック夏季競技大会開催 (ユーゴスラビア・ベオグラード)	第5回全国身体障害者スポーツ大会開催 (長崎) 第4回身体障害者スポーツ指導者認定講習会 (JSAD 主催)
1970	S45 「心身障害者対策基本法」公布 (1993年から障害者基本法と改称)	第2回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催 (アメリカ・シカゴ)	第1回車椅子バスケットボール競技大会開催 (後に第1回日本選手権と位置づけ) 第5回身体障害者スポーツ指導者認定講習会 (JSAD 主催) 第6回全国身体障害者スポーツ大会開催 (岩手)
1971	S46 学校教育法「養護・訓練」	第7回デフリンピック冬季競技大会開催 (スイス・アデルボーデン)	第7回全国身体障害者スポーツ大会開催 (和歌山) 第6回身体障害者スポーツ指導者認定講習会 (JSAD・国立身障センター共催)
1972	S47 第20回夏季オリンピック 第11回冬季オリンピック	国際ストーク・マンデビル大会委員会 (ISMGC) が国際ストーク・マンデビル競技連盟 (ISMGF) に改名 第4回パラリンピック夏季競技大会開催 (西ドイツ・ハイデルベルグ) 脊髄損傷	第8回全国身体障害者スポーツ大会開催 (鹿児島) 第7回身体障害者スポーツ指導者認定講習会 (JSAD・国立身障センター共催) 日本身体障害者スキー協会設立 第1回全国身体障害者スキー大会開催
1973	S48 厚生省事務次官通達「療育手帳制度」はじまる 厚生省社会局更生課長通知：「都道府県身体障害者スポーツ協会の設立について」	第12回デフリンピック夏季競技大会開催 (スウェーデン・マルメ)	第1回全国身体障害者アーチェリー選手権大会開催 第9回全国身体障害者スポーツ大会開催 (千葉) 身体障害者スポーツ指導者研修会 (JSAD・国立身障センター共催)
1974	S49	国際協力事業団 (JICA) 設立	第10回全国身体障害者スポーツ大会開催 (茨城) 大阪市身体障害者スポーツセンター開設 (H9年、大阪市長居障害者スポーツセンターに改名) 1974年全国車椅子バスケットボール競技大会開催 身体障害者スポーツ指導者研修会 (JSAD・国立身障センター共催)

年	情勢/法令等	国際的な流れ	わが国の流れ
1975	S50	極東・南太平洋障害者スポーツ連盟(FESPIC)設立 (後にFESPIC連盟と改称) 第1回フェスピック競技大会開催(日本・大分) 第8回デフリンピック冬季競技大会開催 (アメリカ・レイクプラシッド)	第11回全国身体障害者スポーツ大会開催(三重) 身体障害者スポーツ指導者研修会 (JSAD・国立身障センター共催) 日本車椅子バスケットボール連盟設立
1976	S51	第21回夏季オリンピック 第12回冬季オリンピック 北欧障害者スポーツ連盟(NHIF)設立 第5回パラリンピック夏季競技大会開催 (カナダ・トロント) 脊髄損傷・切断・視覚障害 第1回パラリンピック冬季競技大会 切断・視覚障害・ポリオ(スウェーデン・エンシェルトヴィーク)	第12回全国身体障害者スポーツ大会開催(佐賀) 第1回冬季パラに日本選手2名が非公式に参加 身体障害者スポーツ指導者研修会 (JSAD・国立身障センター共催) 日本身体障害者アーチェリー連盟設立
1977	S52	第2回フェスピック競技大会開催 (オーストラリア・パラマッタ) 第13回デフリンピック夏季競技大会開催 (ルーマニア・ブカレスト) 第1回スペシャルオリンピックス冬季世界大会 (アメリカ・コロラド州)	第13回全国身体障害者スポーツ大会開催(青森) 身体障害者スポーツ指導者研修会 (JSAD・国立身障センター共催)
1978	S53	国際脳性麻痺者スポーツ・レクリエーション協会 (CPISRA)設立 脳性麻痺者国際セミナー & 大会開催 (イギリス・エジンバラ)	第14回全国身体障害者スポーツ大会開催(長野) 身体障害者スポーツ指導者研修会 (JSAD・国立身障センター共催)
1979	S54	国際障害者スポーツ機構ヨーロッパ委員会 (EC-ISOD)設立 第9回デフリンピック冬季競技大会開催 (フランス・メリベル)	第15回全国身体障害者スポーツ大会開催(宮崎) 身体障害者スポーツ指導者研修会 (JSAD・国立リハセンター共催)
1980	S55	第22回夏季オリンピック 第13回冬季オリンピック 国際視覚障害者スポーツ連盟(IBSA)設立 グットマン博士逝去(享年80歳) 第6回パラリンピック夏季競技大会開催 (オランダ・アーネム) 脊髄損傷・切断・視覚障害・ 脳性麻痺 第2回パラリンピック冬季競技大会開催 (ノルウェー・ヤイロ) 切断・視覚障害	第16回全国身体障害者スポーツ大会開催(栃木) 第1回日本チェアスキー大会開催 日本チェアスキー協会設立 身体障害者スポーツ指導者研修会 (JSAD・国立リハセンター共催)
1981	S56	国連「国際障害者年行動 計画」採択 第14回デフリンピック夏季競技大会開催 (西ドイツ・ケルン)	第1回大分国際車いすマラソン大会開催 日本スペシャルオリンピックス委員会発足 (1992年解散) 日本肢体不自由者卓球協会設立 名古屋市障害者スポーツセンター開設 第1回日本肢体不自由者卓球大会開催(大阪) (1987年より日本障害者卓球大会) 身体障害者スポーツ指導者研修会 (JSAD・国立リハセンター共催) 身体障害者スポーツ規則改善格付研修会 (JSAD・国立リハセンター共催) 第17回全国身体障害者スポーツ大会開催(滋賀)
1982	S57	国際調整委員会(ICC)設立 第3回フェスピック競技大会開催(香港・沙田市)	第1回全国盲人マラソン小田原大会開催 第18回全国身体障害者スポーツ大会開催(島根) 身体障害者スポーツ指導者研修会 (JSAD・国立リハセンター共催) 国立療養所箱根病院・神奈川県総合リハセンター間 で車椅子ツインバスケの親善試合
1983	S58	第10回デフリンピック冬季競技大会開催 (イタリア・マドンナ・ディ・カンピリオ)	第19回全国身体障害者スポーツ大会開催(群馬) 身体障害者スポーツ指導者研修会 (JSAD・国立リハセンター共催) 広島市心身障害者福祉センター開設 日本盲人マラソン協会設立(1999年NPO法人認可) 第1回大阪車椅子トラック競技選手権大会開催

年	情勢/法令等	国際的な流れ	わが国の流れ
1984	S59 第23回夏季オリンピック 第14回冬季オリンピック	世界盲人連合(WBU)設立 第7回パラリンピック夏季競技大会開催 (エイルズベリー/ニューヨーク) 第3回パラリンピック冬季競技大会開催 (オーストリア・インスブルック)	第1回日本身体障害者水泳選手権大会開催 日本身体障害者水泳連盟設立 東京都多摩障害者スポーツセンター開設 福岡市立障害者スポーツセンター開設 第1回日本車いすテニス競技大会開催 第20回全国身体障害者スポーツ大会開催(奈良)
1984	S59		第3回冬季パラに日本選手団が初参加 身体障害者スポーツ指導者研修会 (JSAD・国立リハセンター共催) 東京ゆうあいピック開催 (スペシャルオリンピックス東京地区委員会主催)
1985	S60	第15回デフリンピック夏季競技大会開催 (アメリカ・ロサンゼルス)	第21回全国身体障害者スポーツ大会開催(鳥取) 西宮市総合福祉センター開設 第1回飯塚国際車いすテニス大会開催 (社福)日本盲人会連合スポーツ協議会設立 身体障害者スポーツ指導者研修会〔中級コース〕 (日本リハ協会主催) 身体障害者スポーツ指導者研修会〔上級コース〕 (日本リハ協会主催) 身体障害者スポーツ指導者研修会〔施設Aコース〕 (日本リハ協会主催) 身体障害者スポーツ指導者研修会〔施設Bコース〕 (日本リハ協会主催)
1986	S61	国際精神薄弱者スポーツ協会(INAS-FMH)設立 (現Inas) 第4回フェスピック競技大会開催 (インドネシア・スラカルタ)	第1回全日本視覚障害者柔道大会開催 日本視覚障害者柔道連盟設立(2008年NPO認可) 東京都障害者総合スポーツセンター開設 第22回全国身体障害者スポーツ大会開催(山梨) 身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 上級身体障害者スポーツ指導者研修会 (日本リハ協会主催) 特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) ゲーム・スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会共催)
1987	S62	第11回デフリンピック冬季競技大会開催 (ノルウェー・オスロ) 第7回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催 (アメリカ・インディアナ州)	第1回日本車椅子ツインバスケットボール選手権大会開催 身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 上級身体障害者スポーツ指導者研修会 (日本リハ協会主催) 特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会共催) 第23回全国身体障害者スポーツ大会開催(沖縄)
1988	S63 第24回夏季オリンピック 第15回冬季オリンピック 文部省「生涯スポーツ課」 設置	第8回パラリンピック夏季競技大会開催 (韓国・ソウル) 第4回パラリンピック冬季競技大会開催 (オーストリア・インスブルック) 第1回IPC世界車いすダンス選手権大会開催 (日本・千葉市)	第24回全国身体障害者スポーツ大会開催(京都) 京都市障害者スポーツセンター開設 身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 日本車椅子ツインバスケットボール連盟設立 上級身体障害者スポーツ指導者研修会 (日本リハ協会主催) 特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会 (日本リハ協会主催)

年	情勢/法令等	国際的な流れ	わが国の流れ
1989	S64 H1 ベルリンの壁崩壊 「21世紀に向けたスポーツの振興について」 文部省保健体育審議会答申	国際パラリンピック委員会(IPC)設立 第5回フェスピック競技大会開催 (日本・神戸) 第16回デフリンピック夏季競技大会開催 (ニュージーランド・クライストチャーチ) 第4回スペシャルオリンピックス冬季世界大会開催 (アメリカ・ネバダ/カリフォルニア州) 第1回脳性麻痺者世界大会(ロビンフッド大会)開催 (イギリス・ノッthingガム)	第25回全国身体障害者スポーツ大会開催(北海道) 日本身体障害者陸上競技連盟設立 身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 上級身体障害者スポーツ指導者研修会 (日本リハ協会共催) 特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 第1回日本身体障害者陸上競技選手権大会開催 公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会 (日本リハ協会主催)
1990	H2 「ADA法(米国障害者法)」 制定(アメリカ) 東西ドイツ統一		第1回視覚ハンディキャップテニス大会開催 日本ブラインドテニス連盟(旧日本視覚ハンディ キャップテニス協会)設立 第1回日本身体障害者バドミントン大会開催 第26回全国身体障害者スポーツ大会開催(福岡) 全日本女子車椅子バスケットボール選手権大会開催 日本障害者スポーツ射撃連盟設立(2002年NPO認可) 日本障害者セーリング協会設立(1999年NPO法人認可) 日本障害者自転車協会設立 日本障害者バドミントン協会設立 埼玉県障害者交流センター開設 滋賀県立障害者福祉センター開設 大阪府立障害者交流促進センター開設 身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 上級身体障害者スポーツ指導者研修会 (日本リハ協会主催) 特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会 (日本リハ協会主催) 国際協力事業団(JICA)委託事業:アジアを中心とし た障害者スポーツ関係者の研修はじめる (日障スポ協)
1991	H3 ソビエト連邦崩壊 「障害者保障法」制定(中 国)	第12回デフリンピック冬季競技大会開催 (カナダ・バンフ) 第8回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催 (アメリカ・ミネソタ州) 第40回国際ストーク・マンデビル競技大会開催 (イギリス・エイルズベリー)	ジャパンパラリンピック陸上競技大会開催 ジャパンパラリンピック水泳競技大会開催 日本車いすテニス協会設立 日本障害者ゴルフ協会設立 群馬県立ふれあいスポーツプラザ開設 身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 上級身体障害者スポーツ指導者研修会 (日本リハ協会主催) 特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 第1回日本身体障害者バドミントン選手権大会開催 公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会 (日本リハ協会主催) 第27回全国身体障害者スポーツ大会開催(石川)

年	情勢/法令等	国際的な流れ	わが国の流れ
1992	H4 ESCAP「アジア太平洋障害者の十年」決議 第25回夏季オリンピック 第16回冬季オリンピック	第9回パラリンピック夏季競技大会 (スペイン・バルセロナ) 第5回パラリンピック冬季競技大会 (フランス・アルペールビル) INAS-FID 世界競技大会(スペイン・マドリッド)	第28回全国身体障害者スポーツ大会開催(山形) 第1回全国知的障害者スポーツ大会開催(東京) 日本スペシャルオリンピックス委員会解散 日本車いすダンス研究会発足 障害者スポーツ文化センター横浜ラポール開設 身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 上級身体障害者スポーツ指導者研修会 (日本リハ協会主催) 特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会 (日本リハ協会主催)
1993	H5	第17回デフリンピック夏季競技大会開催 (ブルガリア・ソフィア) 第5回スペシャルオリンピックス冬季世界大会開催 (オーストリア・ザルツブルグ) 第42回国際ストーク・マンデビル競技大会開催 (イギリス・エイルズベリー)	日本車椅子ツインバスケットボール連盟独立 日本身体障害者野球連盟設立 日本車いすダンススポーツ連盟設立(2000年NPO認可) 第29回全国身体障害者スポーツ大会開催(徳島) 第1回全国身体障害者野球大会開催(神戸) 第2回全国知的障害者スポーツ大会開催(熊本) 身体障害者スポーツ指導者資格取得認定校制度発足(JSAD) 身体障害者スポーツ指導者資格認定制度発足(JSAD) 身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 上級身体障害者スポーツ指導者研修会 (日本リハ協会主催) 特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会 (日本リハ協会主催) 第1回全国障害者交流乗馬大会開催 (明石乗馬協会主催)
1994	H6 第17回冬季オリンピック	第6回パラリンピック冬季競技大会開催 (ノルウェー・リレハンメル) 第6回フェスピック競技大会(中国・北京) 第1回IPC世界陸上競技選手権大会開催 (ドイツ・ベルリン) 第43回国際ストーク・マンデビル競技大会開催 (イギリス・エイルズベリー)	ジャパンパラリンピック冬季(スキー)競技大会開催 日本ゴールボール協会設立 スペシャルオリンピックス日本設立 (2001年NPO認可) 日本視覚障害ゴルフアース協会設立(2008年NPO認可) ふれあいランド岩手開設 こうべ市民福祉スポーツセンター開設 第30回全国身体障害者スポーツ大会開催(愛知) 第3回全国知的障害者スポーツ大会開催(群馬) 身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 上級身体障害者スポーツ指導者研修会 (日本リハ協会主催) 特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会 (日本リハ協会主催) 第1回全国フロアバレーボール大会開催 第1回日本ゴールボール選手権大会開催 第1回日本身体障害者自転車競技選手権大会開催

年	情勢/法令等	国際的な流れ	わが国の流れ
1995	H7 「精神障害者保健福祉手帳制度」はじまる 「障害者プラン」 阪神・淡路大震災	国際聴覚障害者スポーツ連盟(CISS)がIPCより離脱 第13回デフリンピック冬季競技大会開催 (フィンランド・ウツラス) 第9回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催 (アメリカ・コネチカット州) 第44回国際ストーク・マンデビル競技大会開催 (イギリス・エイルズベリー)	ジャパンパラリンピック(アイススレッジ)競技大会開催 IPC総会開催(東京都) 第1回電動車椅子サッカー全国大会開催 日本電動車椅子サッカー協会設立 日本障害者乗馬協会設立 日本聴覚障害者ラグビー連盟 第1回夏季ナショナルゲーム熊本大会開催 (S0日本主催) 第31回全国身体障害者スポーツ大会開催(福島) 第4回全国知的障害者スポーツ大会(兵庫)→震災により中止 身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 上級身体障害者スポーツ指導者研修会 (日本リハ協会主催) 特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会 (日本リハ協会主催)
1996	H8 第26回夏季オリンピック	第10回パラリンピック夏季競技大会開催 (アメリカ・アトランタ) 第45回国際ストーク・マンデビル競技大会開催 (イギリス・エイルズベリー): 初心者対象	パラリンピック金メダリストに天皇賜杯が下賜される 広島県立スポーツ交流センターおろづる開設 高知県立障害者スポーツセンター開設 日本障害者シンクロナイズドスイミング協会設立 身体障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催) 上級身体障害者スポーツ指導者研修会(JSAD主催) 特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (JSAD主催) 公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会 (JSAD主催) 第1回冬季ナショナルゲーム宮城大会開催 (S0日本主催) 第1回冬季ナショナルゲーム福岡大会開催 (S0日本主催) 第32回全国身体障害者スポーツ大会開催(広島) 第5回全国知的障害者スポーツ大会(北海道)
1997	H9	第18回デフリンピック夏季競技大会開催 (デンマーク・コペンハーゲン) 第6回スペシャルオリンピックス冬季世界大会開催 (カナダ・トロント) 第46回国際ストーク・マンデビル競技大会開催 (イギリス・エイルズベリー)	第33回全国身体障害者スポーツ大会開催(大阪) 第6回全国知的障害者スポーツ大会(愛知) 身体障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催) 上級身体障害者スポーツ指導者研修会(JSAD主催) 特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (JSAD主催) 日本障害者ダーツ連盟設立 日本デフゴルフ協会設立(2009年NPO認可) 日本ボッチャ協会設立 日本バリアフリーダイビング協会設立 大阪市舞洲障害者スポーツセンター開設 日本ウィルチェアラグビー連盟設立 日本シッティングバレーボール協会設立 新潟県障害者交流センター開設 公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会 (JSAD主催) 身体障害者スポーツコーチ養成研修会(JSAD主催) ブロック単位で知的障害に関する補講実施 (H11まで) 第1回日本障害者フライングディスク競技大会開催 第1回日本シッティングバレーボール選手権大会開催 第1回ひと・ヒトヨットレース開催(愛知)

年	情勢/法令等	国際的な流れ	わが国の流れ
1998	H10	<p>第18回冬季オリンピック</p> <p>第7回パラリンピック冬季競技大会開催(日本・長野)</p> <p>第47回国際ストーク・マンデビル競技大会開催(イギリス・エイルズベリー)</p>	<p>障害者スポーツに関する懇談会(厚生省事務次官私的懇談会)</p> <p>日本車いすフェンシング協会設立</p> <p>日本身体障害者アイススポーツ連盟スレッジホッケー委員会設立</p> <p>全日本グランドソフトボール連盟設立</p> <p>日本障害者フライングディスク連盟設立</p> <p>日本視覚障害者卓球連盟設立</p> <p>日本フロアバレーボール連盟設立</p> <p>長野県障害者福祉センターサンアップル開設</p> <p>障害者スポーツ支援基金助成事業創設</p> <p>ジャパンパラリンピックアーチェリー競技大会開催以降毎年開催</p> <p>第1回バリアフリーダイビング全国大会開催以降毎年開催</p> <p>第34回全国身体障害者スポーツ大会開催(神奈川)</p> <p>第7回全国知的障害者スポーツ大会(茨城)</p> <p>中級身体障害者スポーツ指導員研修会(JSAD主催)</p> <p>上級身体障害者スポーツ指導員研修会(JSAD主催)</p> <p>スポーツコーチ養成研修会(JSAD主催)</p> <p>公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会(JSAD主催)</p> <p>第1回日本車いすフェンシング選手権大会開催以降毎年開催</p> <p>FID ジャパン・チャンピオンシップ卓球大会開催以降毎年開催</p> <p>第2回夏季ナショナルゲーム神奈川大会開催(SO日本主催)</p> <p>日本精神薄弱者愛護協会を日本知的障害者愛護協会に改称</p>
1999	H11	<p>第14回デフリンピック冬季競技大会開催(スイス・ダボス)</p> <p>第7回フェスピック競技大会開催(タイ・バンコク)</p> <p>第10回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催(アメリカ・ノースカロライナ州)</p> <p>1999 World Wheelchair Games(ニュージーランド・クライストチャーチ)</p>	<p>日本知的障害者卓球連盟設立</p> <p>日本ハンディキャップサッカー連盟設立</p> <p>日本知的障害者水泳連盟設立</p> <p>日本FIDバスケットボール連盟設立</p> <p>(財)日本身体障害者スポーツ協会を(財)日本障害者スポーツ協会に改名</p> <p>日本パラリンピック委員会を(財)日本障害者スポーツ協会の内部組織として設置</p> <p>日本ディスエイブルパワーリフティング連盟設立</p> <p>(社)日本精神保健福祉連盟内に「障害者スポーツ推進委員会」を設置</p> <p>第35回全国身体障害者スポーツ大会開催(熊本)</p> <p>第8回全国知的障害者スポーツ大会(島根)</p> <p>初級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催)</p> <p>中級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催)</p> <p>上級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催)</p> <p>スポーツコーチ養成研修会(JSAD主催)</p> <p>第1回日本ウィルチェアラグビー選手権大会開催</p> <p>第1回日本ボッチャ選手権大会開催 以降毎年開催</p>

年	情勢/法令等	国際的な流れ	わが国の流れ
2000	H12	第11回パラリンピック夏季競技大会開催 (オーストラリア・シドニー) IOC・IPC間の協力関係を強化することに関する合意書に両委員長が調印	第36回全国身体障害者スポーツ大会開催(富山) 第9回全国知的障害者スポーツ大会(岐阜) 日本知的障害者スポーツ連盟設立 日本車椅子空手道連盟設立 鹿児島県障害者自立支援センター ハートピアかごしま開設 (財)日本障害者スポーツ協会が(財)日本体育協会に加盟 中級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催) 上級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催) スポーツコーチ養成研修会(JSAD主催) 日本ディスエイブルパワーリフティング大会開催 第2回冬季ナショナルゲーム長野大会開催 (SO日本主催)
2001	H13	IOC・IPC間の具体的協力内容を記した合意書に両委員長が調印 第19回デフリンピック夏季競技大会開催 (イタリア・ローマ) 第7回スペシャルオリンピックス冬季世界大会開催 (アメリカ・アラスカ州) 2001 World Wheelchair Games (ニュージーランド・クライストチャーチ)	第1回全国障害者スポーツ大会開催(宮城) ※全スポとゆうあいピックを統合 日本脳性麻痺7人制サッカー協会設立 NPO法人日本障害者スキー連盟設立 中級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催) 日体協公認指導員を対象とした中級指導員養成研修会はじまる 上級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催) スポーツコーチ養成研修会(JSAD主催) 第1回全国精神障害者バレーボール大会開催
2002	H14	第19回冬季オリンピック [新障害者基本計画]策定 IPC東アジアパラリンピック委員会設立(H15年、「アジアパラリンピック委員会(APC)」に名称変更) 第8回パラリンピック冬季競技大会開催 (アメリカ・ソルトレークシティ) 第8回フェスピック競技大会(韓国・釜山) INAS-FID世界サッカー選手権大会開催 (東京/神奈川/横浜) 世界車椅子バスケットボール選手権大会開催 (北九州市) 2002 World Wheelchair Games 開催 (ニュージーランド・クライストチャーチ)	第2回全国障害者スポーツ大会開催(高知) (精神障害者バレーボールをオープン競技として実施) NPO法人日本車椅子ビリヤード協会設立 日本視覚障害者サッカー協会設立 日本パラリンピック委員会が日本アンチ・ドーピング機構に加盟 (財)日本障害者スポーツ協会専門委員会に科学委員会を設置 スポーツ振興くじ助成事業創設 第3回夏季ナショナルゲーム・東京開催 (SO日本主催) 中級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催) 上級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催) スポーツコーチ養成研修会(JSAD主催)
2003	H15	第15回デフリンピック冬季競技大会開催 (スウェーデン・スツバル) 第11回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催 (アイルランド・ダブリン) ISMWSF World Wheelchair Games and ISOD World Athletics (ニュージーランド・クライストチャーチ)	第3回全国障害者スポーツ大会開催(静岡) 第1回全国車椅子空手道選手権大会開催 以降毎年開催 日本障害者ローンボウルズ連盟設立 全日本視覚障害者ボウリング協会設立 日本スポーツ仲裁機構設立 中級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催) 上級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催) スポーツコーチ養成研修会(JSAD主催) 第1回日本視覚障害者サッカー選手権大会開催以降毎年開催



年	情勢/法令等	国際的な流れ	わが国の流れ
2004	H16	第28回夏季オリンピック 国際車いす・切断者競技連盟 (IWAS) 設立 ※ISMWSFとISODが統合 第12回パラリンピック夏季競技大会開催 (ギリシャ・アテネ)	第4回全国障害者スポーツ大会開催(埼玉) 中級障害者スポーツ指導員養成研修会 (JSAD 主催) NPO 法人日本障害者スポーツ指導者協議会設立 (2009年解散) 上級障害者スポーツ指導員養成研修会 (JSAD 主催) スポーツコーチ養成研修会 (JSAD 主催) 第3回冬季ナショナルゲーム長野大会開催 (SO 日本主催) IPC 車いすダンススポーツ世界選手権大会2004 (日本・東京)
2005	H17	第20回デフリンピック夏季競技大会開催 (オーストラリア・メルボルン) パラリンピック ワールドカップ2005開催 (イギリス・マンチェスター) IWAS World Games (ブラジル・リオデジャネイロ) 第8回スペシャルオリンピックス冬季世界大会 (日本・長野)	第1回障害者スポーツ指導者全国研修会 (NPO 日本障害者スポーツ指導者協議会主催 東京) 第5回全国障害者スポーツ大会開催(岡山) 東京都障害者スポーツセンター (多摩、王子) の運 営主体がJSAD から東京都障害者スポーツ協会に移 管
2006	H18	第20回冬季オリンピック 第9回パラリンピック冬季競技大会開催 (イタリア・トリノ) 第9回フェスピック競技大会開催 (マレーシア・クアラルンプール) FESPIC 連盟、アジアパラリンピック評議会解散 アジアパラリンピック委員会 (APC) 設立	第6回全国障害者スポーツ大会開催(兵庫) NPO 法人日本アダプティブローイング協会設立 日本アイススレッジホッケー協会設立 第2回障害者スポーツ指導者全国研修会 (NPO 日本障害者スポーツ指導者協議会主催 愛知)
2007	H19	第16回デフリンピック冬季競技大会開催 (アメリカ・ソルトレークシティ) 第1回FIPFA ワールドカップ2007開催 (日本・東京) 第5回INAS-FID 世界卓球選手権開催 (日本・千葉) 第12回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催 (中国・上海)	第7回全国障害者スポーツ大会開催(秋田) 第3回障害者スポーツ指導者全国研修会 (NPO 日本障害者スポーツ指導者協議会主催 愛知) 日本チェアカーリング協会設立 (社) 精神保健福祉連盟精神障害者スポーツ推進委 員会設立
2008	H20	第29回夏季オリンピック 第13回パラリンピック夏季競技大会開催 (中国・北京)	第8回全国障害者スポーツ大会開催(大分) ※精神障害者バレーボール及び内部障害者(ぼうこ 又は直腸機能障害)を対象とした競技・種目を導入 第4回障害者スポーツ指導者全国研修会 (NPO 日本障害者スポーツ指導者協議会主催 福岡)
2009	H21	オリンピック競技大会及 びパラリンピック競技大 会優秀者表彰規程の制定 第21回デフリンピック夏季競技大会開催 (台湾・台北) 東京2009アジアユースパラゲームズ開催 (日本・東京) 第2回INAS-FID グローバル競技大会開催 (チェコ・リベレツ) 第9回スペシャルオリンピックス冬季世界大会開催 (アメリカ・アイダホ)	NPO 法人日本障害者スポーツ指導者協議会解散 第9回全国障害者スポーツ大会開催(新潟) 第5回障害者スポーツ指導者全国研修会(北海道)
2010	H22	第21回冬季オリンピック 第10回パラリンピック冬季競技大会開催 (カナダ・バンクーバー) 第1回アジアパラ競技大会(中国・広州)	第10回全国障害者スポーツ大会開催(千葉) 第6回障害者スポーツ指導者全国研修会(山口)
2011	H23	東日本大震災 (財)日本体育協会創立 100周年 スポーツ基本法公布 第3回INAS グローバル競技大会開催 (イタリア・リグーリア) 第13回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催 (ギリシャ・アテネ)	日本障害者スポーツ協会会長交代 第11回全国障害者スポーツ大会開催(山口) 第7回障害者スポーツ指導者全国研修会(神戸)
2012	H24	第30回夏季オリンピック 第14回パラリンピック夏季競技大会開催 (イギリス・ロンドン)	第12回全国障害者スポーツ大会開催(岐阜)

年	情勢/法令等	国際的な流れ	わが国の流れ
2013	H25 2020オリンピック・パラリンピック招致都市が東京に決定  内閣官房内に「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室」を設置	第3回アジアユースパラ競技大会開催(マレーシア・クアラルンプール)	「日本の障がい者スポーツの将来像(ビジョン)」発表 第13回全国障害者スポーツ大会開催(東京) 第8回障害者スポーツ指導者全国研修会(福岡) 第9回障害者スポーツ指導者全国研修会(富山) 生涯スポーツ・体力づくり全国会議2013(宮崎) JPC内に強化委員会を設置 協会に倫理委員会設置 JPC役員が国際パラリンピック委員会(IPC)の理事に就任
2014	H26 第22回冬季オリンピック	第11回パラリンピック冬季競技大会開催(ロシア・ソチ) 第2回アジアパラ競技大会開催(韓国・仁川)	ジャパンパラゴールボール競技大会開催 ジャパンパラウィルチェアラグビー競技大会開催 日本パラリンピック委員会選手発掘事業を開催 日本オリンピック委員会(JOC)のトップアスリート就職支援事業「アスナビ」について、パラリンピックを目指す強化指定選手の就職を支援する協定をJOCとJPC間で協定を結ぶ 第14回全国障害者スポーツ大会開催(長崎) 第10回障害者スポーツ指導者全国研修会(福島) 生涯スポーツ・体力づくり全国会議2014(山口) 当協会の所管が厚生労働省から文部科学省に移管 「体育の日」中央記念行事 スポーツ祭り2014の主権者に加わる JPCに会長職を置き、委員長と役割を分担する JPC役員がアジアパラリンピック委員会(APC)の副会長に就任 協会名称の一部変更 日本語：「(公財)日本障がい者スポーツ協会」 英語：Japanese Para-Sports Association(JPSA) JPCの英文名称の一部変更 英語：Japanese Paralympic Committee

【参考文献】

「身体障害者スポーツ」沖野亦男編  
「身体障害者のスポーツ」Ludwing Guttmann著、市川宣恭 監訳  
「国際身体障害者スポーツ競技会 東京パラリンピック大会 報告書No.1」  
「ROAD TO THE PARALYMPICS」JHOAN SCRUTON著 PETERHOUSE PRESS 社  
「障害のある人たちのスポーツ」藤原進一郎著  
「PARALYMPIC TOKYO 1964- 広報資料」(財)国際身体障害者スポーツ大会運営委員会広報部会  
「スポーツは生きる力」芝田徳造著 民衆社  
「障がい者スポーツの歴史と現状」公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

「創立20年史」(財)日本身体障害者スポーツ協会  
「21世紀と体育・スポーツ科学の発展：6障害者スポーツ振興のために」杏林書院・日本体育学会編  
「21世紀を見据えた障害者スポーツの在り方」(財)日本身体障害者スポーツ協会  
「International Paralympic Committee」公式ウェブサイト  
「CP SPORTS」公式ウェブサイト  
「公益財団法人日本障がい者スポーツ協会」公式ウェブサイト  
「日本盲人会連合」公式ウェブサイト  
他、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会加盟競技団体公式ウェブサイト

## 障がい者スポーツの歴史と現状

発行年月

平成27年2月

発 行

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町2-13-6 常和水天宮ビル3階

TEL.03-5939-7021 FAX.03-5641-1213

URL <http://www.jsad.or.jp/>

